

科目名	公衆衛生看護学		
科目名（英語）	Public Health Nursing		
担当教員	尾形 由起子、手島 聖子、山下 清香、小野 順子		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を学ぶ。

生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

生体機能看護学 ・ 、病態看護学 ・ を修得していることが望ましい。

関連資格

保健師国家試験受験資格

テキスト

尾形由起子他編「地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習」クオリティケア、2019、3,080円
「国民衛生の動向2021/2022」 一般財団法人厚生労働統計協会、2021、2,695円

参考図書・教材等

適宜提示する。

実務経験を生かした授業

実務経験を有する教員が講義を行う。

実践現場のゲストティーチャーを招く。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

質問はレスポンスカードで受け付け、授業またはメールで回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を理解する。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に論ずることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

・公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を理解する。

・生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に理解する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした保健師の看護活動の特徴や活動方法、内容を理解することが出来る。公衆衛生看護が予防的視点で展開されている事を理解できる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
<p>公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティの特徴やニーズが理解できる。 ・公衆衛生看護活動の基本的理念に基づき対象を理解し、ライフステージ、健康課題、活動の場などの異なる視点を持って多角的に活動が展開されていることを理解することができる。
A: 80 ~ 89 履修目標を達成している。
<p>公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティの特徴やニーズを把握する必要性が理解できる。 ・公衆衛生看護活動の基本的理念に基づき対象を理解し、ライフステージ、健康課題、活動の場などの異なる視点で活動が展開されていることを理解することができる。
B: 70 ~ 79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
<p>公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティにはそれぞれ特徴がありニーズが異なることを理解できる。 ・予防的視点で活動する公衆衛生看護活動の必要性が理解できる。
C: 60 ~ 69 到達目標を達成している。
<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした保健師の看護活動の特徴や活動方法、内容を理解することが出来る。 ・公衆衛生看護が予防的視点で展開されている事を理解できる。
不可: ~ 59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
定期試験	60	知識・技能(DP1) : 60
授業内レポート・小テスト	20	思考・判断・表現(DP3) : 20
その他	20	思考・判断・表現(DP3) : 20
備考	授業への出席、授業態度を評価に含む。再試験を実施する。	

・授業計画、 . アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
グループディスカッション・課題学習等

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	公衆衛生看護学の基盤となる概念(尾形)
	授業方法/進め方	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 1) 保健師の仕事のミッション 2) 公衆衛生看護とは 3) ライフステージの健康問題 4) 社会システムの中の保健活動 5) 保健師の活動の特徴 6) 地域で求められる人材像 2. パズセッション(保健師について知りたいこと)
	事前・事後学習	事前学習 ・テキストの該当部分を読む。 事後学習 ・パワーポイントの資料を読んで復習する。

2	授業内容（担当教員）	<p>公衆衛生看護の歴史「時代を読む」（山下）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）福岡県立大学看護学部の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・県立養成所から大学へ ・時代背景と看護職養成機関の役割 2）保健師の身分制度 <ul style="list-style-type: none"> ・保健師規則と保助看法 3）健康問題の変遷と保健師の活動の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・戦前～戦後～昭和～平成
	授業方法 / 進め方	<p>1．講義</p> <p>福岡県立看護専門学校から引き継いだ歴史的資料の紹介し、現在は過去の歴史の上に立っており、学生各自がその流れの中にいることを確認する。</p> <p>戦前からの健康課題と保健師の活動の変遷は、イメージしやすいようにDVD(公衆衛生看護の歴史)を視聴する。</p> <p>パワーポイントで要点をまとめる。</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習</p> <p>学内の真島智茂像を確認し、記載された文章を読んでくる。</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読む。 ・学内にある福岡県立専門学校関連の資料を探して読む。 ・パワーポイントの資料で復習する。
3	授業内容（担当教員）	ライフサイクルから見た健康課題とニーズの把握「地域を見る」（尾形）
	授業方法 / 進め方	<p>1．講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）公衆衛生看護活動の目的および活動サイクル 2）公衆衛生看護過程 3）地域看護における看護理論 4）保健統計から見える課題抽出 5）人々の健康状態，生活様態を把握し、健康課題を抽出する方法
	事前・事後学習	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト の該当部分（第2編衛生の主要指標）を読む。 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を復習する。 ・コミュニティーアズパートナーモデル ・看護過程の展開 ・保健統計から見える健康課題
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
4	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と母子保健（手島）
	授業方法 / 進め方	<p>1．講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）ライフステージや核家族の発達段階と健康課題について理解する。 2）育児をめぐる社会情勢の変化を理解する。 3）母子保健の歴史や子育て支援施策を理解する。 4）子ども虐待対応の枠組みや虐待防止対策の取り組みと今後の対応について知る。
	事前・事後学習	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト の該当部分（第3編第2章・母子保健）を読む。 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読む ・パワーポイントの資料を読んで復習する。

5	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と母子保健（小野・ゲストティーチャー）
	授業方法 / 進め方	1. 講義 母子保健事業と保健師の役割を学ぶ。 青年期～周産期、子育て期の母親及び胎児期から乳幼児期の母子の健康づくりや虐待予防、子育て支援について学習する。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（第3編第2章・母子保健）を読む。 事後学習 ・配布資料を読む ・パワーポイントの資料を読んで復習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
6	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と成人保健(小野)
	授業方法 / 進め方	1. 講義 成人期の人々の生活状況や生活の背景、健康状態から成人期の健康問題と健康課題について学ぶ。その上で、健康課題に対する施策や事業、個人、集団地域を対象とした公衆衛生看護活動を学ぶ。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト の該当部分（第3編第1章・生活習慣病と健康増進対策）を読む。 事後学習 ・成人期の主要な死亡原因、有病率、有訴者割合等の健康状態を理解する上で有用な統計情報について国民衛生の動向で確認し配布資料にまとめる。 ・授業で配布した資料を読み、成人期の人の健康状態と一緒に生活をする家族に与える影響を考える。
7	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と高齢者保健(尾形)
	授業方法 / 進め方	1. 講義 1) 高齢期（エリクソンの視点で） 2) 我が国の高齢者施策の変遷 3) 高齢者保健福祉活動の目指すところ 4) 虚弱高齢者事例より寝たきり予防 5) 健康レベルの変更に伴う医療・ケアの連続 6) 保健福祉行政の役割・機能 7) 地域における高齢者保健活動
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（第3編第2章・老人保健、第5編介護保険）を読む。 事後学習 ・テキスト で、高齢者の健康状態に関する保健統計を確認し、考えられる健康課題を考える。
8	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と感染症対策(小野)
	授業方法 / 進め方	1. 講義 我が国の感染症の動向と社会的背景及び感染症に関連した健康問題、健康課題を学ぶ。その上で、健康課題に対する施策や事業、個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護活動を学ぶ。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト （第3編第3章感染症対策）の該当部分を読む。 事後学習 ・自分が住んでいる自治体で行われている感染症対策について調べて学習する。

9	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と難病看護(山下)
	授業方法 / 進め方	我が国における難病の概念とその歴史を理解し、難病患者の生活や心情を学ぶ。また、難病患者を支える制度と個人・家族・集団・地域を対象とした難病患者を支える保健師の活動について学ぶ。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（第3編第4章・難病対策）を読む。 事後学習 ・配布資料を読み復習する。 ・難病の病態と治療、看護、患者を支える制度について調べまとめる。
10	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と精神保健(手島)
	授業方法 / 進め方	1 . 講義 1) ライフステージと精神保健福祉の対象を理解する。 2) 精神保健の歴史や動向を理解する。 3) 精神障がい者（統合失調症）とその家族への理解と看護活動を知る。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（第3編第2章・精神保健）を読む。 事後学習 ・配布資料を読む。 ・提示した厚生労働省のサイトをインターネットで見る。 ・パワーポイントの資料を読んで復習する。
11	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と災害看護(山下) 1) 災害による健康被害 2) 援助対象と看護職の支援 3) 災害のサイクルと公衆衛生看護活動 4) 災害時の活動体制
	授業方法 / 進め方	1 . 講義 1) 最初に写真や図表で災害による被害がイメージする。 2) 災害時の支援体験を交えて講義し、被災者の生活状況や健康問題が理解できるようにする。 3) 支援活動の講義では、被災者側と支援者側の両方の立場で考えると共に、看護師として被災地の保健師と連携することを考えるようにする。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（第1編第2章・健康危機管理体制の整備）を読む。 事後学習 ・配布資料を読む。 ・災害関連の文献をインターネットや図書館で検索し読む。 ・パワーポイントの資料を読んで復習する。

12	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動と産業保健（ゲストティーチャー）
	授業方法 / 進め方	<p>1 . 講義</p> <p>1) 産業分野における保健師の活動を学ぶ。</p> <p>2) アサヒビール博多工場の概要や組織、健康管理の対象について知る</p> <p>。</p> <p>3) 産業看護活動の背景と特徴について、法的根拠や労働衛生の3管理、業務上疾病や作業関連疾患などを学ぶ。</p> <p>4) 産業看護活動の実際について、健康診断や健康重点施策、対象者の特徴が分かる。</p> <p>5) 個別アプローチの特徴や方法について事例を通して学ぶ。</p> <p>6) 事例を通して健康増進活動を学ぶ。</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト の該当部分（第8編労働衛生）を読む。 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読む。 ・パワーポイントの資料を読んで復習する。 ・産業保健における保健師活動の文献を探して読む。活動の概要と考察をA4用紙1枚程度にまとめて提出する。
13	授業内容（担当教員）	<p>ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開 個別から集団(山下)</p> <p>1) ヘルスプロモーションの理念と公衆衛生看護活動の特徴</p> <p>2) グループの特徴と種類</p> <p>3) 保健師のグループ支援</p> <p>4) グループ支援の事例</p>
	授業方法 / 進め方	<p>1 . 講義</p> <p>1) 身近な事例でグループ活動とその意義をイメージする。保健師だけでなくすべての看護職がグループと関わる可能性があることを確認する。</p> <p>2) 基本知識を押さえた後、事例を用いて個別支援からグループ活動、地域活動への発展するプロセスを確認し、保健師のグループ支援活動がイメージできるようにする。</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト の該当部分（第1章～第3章）を読む。 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料とパワーポイントの資料を読んで復習する。 ・テキストの該当部分を読んで復習する。
14	授業内容（担当教員）	<p>ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開 集団から組織（ゲストティーチャー）</p>
	授業方法 / 進め方	<p>地域における高齢者保健活動の展開を講義する。地域で先駆的な活動を行っているホームホスピスの活動を通して、地域で生活することを支えること、その組織化と地域とのつながりの作り方を学ぶ。また法的基盤や財政基盤を学ぶ。</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たんがくのホームページを見ておく。 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読む。 ・パワーポイントの資料を読んで復習する。

15	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護の展開方法のまとめ(尾形)
	授業方法 / 進め方	1 . 講義 1) 公衆衛生看護のミッション（復習） 2) 地域における看護の3つのレベルと対象 3) ジョンスノーのケーススタディ 4) 個別支援と集団及び地域全体の支援の連動 5) 構造的に健康問題を捉える方法 6) 健康課題解決のための施策化
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分(p1～36)を読む。 事後学習 ・配布資料を読む。 ・パワーポイントの資料を読んで復習する。

科目名	公衆衛生看護学		
科目名（英語）	Public Health Nursing		
担当教員	尾形 由起子、山下 清香、小野 順子		
科目区分	看護学部 看護学科、保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

PDCAサイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開プロセスについて学ぶ。
公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握、ニーズに基づく地域の保健活動の目標設定、活動計画の立案、評価について学ぶ。また、対象別の支援方法と保健事業実施計画の企画立案、評価方法を学び、施策化・事業レベルの展開プロセスについても理解する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

公衆衛生看護アセスメント論 を習得していること。

関連資格

保健師国家試験受験資格

テキスト

- 尾形由起子他編「地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習」クオリティケア、2019、3,080円
麻原きよみ他編「公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論 第2版」、医歯薬出版株式会社、2022、3,080円
佐伯和子他編「公衆衛生看護学テキスト第2巻 公衆衛生看護の方法と技術 第2版」、医歯薬出版株式会社、2022、4,400円
岡本玲子他編「公衆衛生看護学テキスト第3巻 公衆衛生看護活動I 第2版」、医歯薬出版株式会社、2022、3,850円

参考図書・教材等

- 宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学2022年版総論」日本看護協会出版会、2022、5,170円
宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学2022年版各論1」日本看護協会出版会、2022、5,390円

実務経験を生かした授業

実務経験を有する教員が講義を行う。
ゲストティーチャーを招く。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

質問はメールで受け付け、授業またはメールで回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握とアセスメントの方法及び展開方法が理解できる。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	地区診断の視点、対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して試行・判断し、自らの考えをまとめることができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・公衆衛生看護におけるPDCAサイクルについて理解する。
- ・公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握、ニーズに基づく地域の保健活動の目標設定、活動計画の立案、評価について理解する。また、対象別の支援方法と保健事業実施計画の企画立案、実施、評価方法を理解し、施策化について検討できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・対象別の公衆衛生看護活動における対象、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開が理解できる。
- ・事例についての地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈および対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

- ・対象別の公衆衛生看護活動におけるPDCA(対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価)を理解し説明することができる。
- ・事例を通して地区診断のための情報収集、情報整理、解釈を行い、対象者の健康ニーズを把握することができる。
- ・対象別の支援方法保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して試行・判断し、自らの考えをまとめる事ができる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

- ・対象別の公衆衛生看護活動におけるPDCA(対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価)を理解することができる。
- ・事例を通して地区診断のための情報収集、情報整理、解釈を行い、対象者の健康ニーズを考える事ができる。
- ・対象別の支援方法保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して理解できる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

- ・事例についての公衆衛生看護活動のPDCA(対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価)を理解することができる。
- ・事例についての地区診断のための情報収集、情報整理、解釈を行い、対象者の健康ニーズを考える事ができる。
- ・事例についての保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

- ・対象別の公衆衛生看護活動における対象、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開が理解できる。
- ・事例についての地区診断のための情報収集、情報整理、解釈および対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	60	知識・技能(DP1) : 60
授業外レポート・宿題	20	思考・判断・表現(DP3) : 20
その他	20	思考・判断・表現(DP3) : 20

授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

グループディスカッション・課題学習等

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	公衆衛生看護活動における健康課題の捉え方、法的根拠と施策体系（尾形）
	授業方法 / 進め方	1 . 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2 . 講義 1) 公衆衛生看護活動の健康課題の捉え方 2) 法的根拠と施策体系 3) 地区活動における健康課題の捉え方（アセスメント、関連要因、優先順位）
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（p1～26）を読む。 事後学習 ・配布資料を読んで復習する。 ・関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
2	授業内容（担当教員）	地区活動計画の企画立案と評価(山下) 1) 地区活動の基本と対象 (1) 地区活動の基本理念 (2) 対象集団の捉え方 2) 地区活動計画づくり (1) 地区活動計画 (2) 目標設定と評価の視点
	授業方法 / 進め方	1 . 講義 1) テキストを参照し、地区活動の基本的な考え方、対象の捉え方を確認する。 2) 配布資料（地域診断演習）を用い、演習を入れながら、地域診断に基づく保健活動計画の立案過程を学習する。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト の該当部分（第7章）を読む。 事後学習 ・配布資料を読み復習する。 ・関連文献・資料を読みファイルする。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。

3	授業内容（担当教員）	保健事業の企画立案、実施、評価と保健師の役割(山下) 1)保健事業の体系 1次予防～3次予防 2)保健事業の目標設定 3)保健事業の企画 4)保健事業の実施 5)保健事業の評価 6)事例と保健師の役割
	授業方法 / 進め方	1. 演習 読んできた保健事業を紹介し、1次予防から3次予防に分類し、事業の関連や位置づけを考える。 2. 講義 保健事業の企画立案、主な事業の特徴、評価の視点を確認する。 最後に、事例を用いて事業の展開と保健師の役割を確認する。
	事前・事後学習	事前学習 ・保健事業の企画実施評価の過程が記述された文献を探し読んでくる。 事後学習 ・配布資料を読んで復習する。 ・関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
4	授業内容（担当教員）	地区活動の展開と保健師の役割(小野) 地区活動の展開の実際
	授業方法 / 進め方	1. 講義 保健活動のP D C Aサイクルに基づく事業展開を市町村が実施する事業の事例を通して学ぶ。
	事前・事後学習	事前学習 ・保健師活動の展開に関する資料を読んでくる。 事後学習 ・配布資料を読んで復習する。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
5	授業内容（担当教員）	成人保健活動の企画立案評価（手島） 生活習慣病
	授業方法 / 進め方	1. 講義 成人保健の動向と健康課題を考察し、法的根拠に基づいて実施される健康づくり活動を学ぶ。また、成人保健対策における個人・集団 ・地域を対象とした公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキスト（第1章・生活習慣病）の該当部分を読む。 ・特定健診・保健指導の資料を読む。 事後学習 ・配布資料を読んで復習する。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。

6	授業内容（担当教員）	母子保健福祉活動の企画立案評価（小野）
	授業方法 / 進め方	1. 講義 母子保健分野の社会背景や保健統計をもとに健康課題を考察し、法的根拠に基づく妊娠期(胎児期)から出産後(乳幼児期)の個人、集団、地域を対象に行われる継続した母子保健活動の展開を学ぶ。
	事前・事後学習	事前学習 ・母子保健活動の展開事例の資料を読んでおく。 ・実際に市町村で実施されている母子保健事業の資料を準備する。 事後学習 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
7	授業内容（担当教員）	母子保健福祉活動の企画立案評価（小野）
	授業方法 / 進め方	1. 講義 自治体を実施する母子保健事業の対象者のライフサイクルや健康状態を考慮した事業体系を学ぶ。 2. ディスカッション 母子保健事業と保健師活動について予防的観点で整理し、継続支援の観点で事業の関連を検討する。
	事前・事後学習	事後学習 ・グループ討議で行った予防的視点での保健事業の体系的整理を参考に、公衆衛生看護学実習の実習先(市町村)実施されている母子保健事業について、整理する。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
8	授業内容（担当教員）	成人保健活動の企画立案評価（ゲストティーチャー） 地域保健・職域保健の連携
	授業方法 / 進め方	1. 講義 職場における健康管理を行う事業所の保健活動について学ぶ。 地域保健と職域保健の連携した活動展開の重要性を考察する。
	事前・事後学習	事後学習 ・配布資料を読み復習する。 ・関連する国家試験過去問題を解く。
9	授業内容（担当教員）	高齢者保健福祉活動の企画立案評価（尾形）
	授業方法 / 進め方	1. 講義 我が国の高齢者保健福祉分野の社会的背景と高齢者を支える制度の法的根拠と概要を理解し、高齢者の抱える課題とその問題に取り組む保健事業の展開を学ぶ。
	事前・事後学習	事前学習 ・テキストの該当部分(p62~68)を読む。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
10	授業内容（担当教員）	高齢者保健福祉活動の企画立案評価（尾形）
	授業方法 / 進め方	1. 討論 地域包括ケアシステム構築のための保健事業の展開と、住民と協働で行う保健事業の展開の事例を用い、保健事業の展開について学ぶ。
	事前・事後学習	事後学習 ・配布資料を読む。 関連する国家試験の過去問題を解く。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

11	授業内容（担当教員）	感染症を対象とした保健活動の企画立案評価（小野・ゲストティーチャー）
	授業方法 / 進め方	1．講義 我が国の感染症の動向と健康課題を考察し、法的根拠に基づいて実施される感染症対策を学ぶ。また、感染症対策における個人・集団・地域を対象とした公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。 2．ディスカッション
	事前・事後学習	事後学習 ・配布資料を読む。 ・公衆衛生看護学実習 の実習先市町村で行われている感染症対策及び予防接種について対象者、目的、方法などを調べる。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	精神保健福祉活動の企画立案評価（山下）
	授業方法 / 進め方	1．講義 精神障がい者の社会復帰の課題と公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。関係機関との連携、社会資源の創出等地域ケアシステム構築の取り組み事例について学ぶ。
	事前・事後学習	事後学習 ・配布資料を読み復習する。 ・関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
13	授業内容（担当教員）	難病保健福祉活動の企画立案評価（山下）
	授業方法 / 進め方	1．講義 難病対策の社会背景と施策の概要を理解し、難病患者と家族の抱える問題と課題解決にむけた保健事業について理解する。 保健所の難病対策事業と地域ケアシステム構築について学ぶ。
	事前・事後学習	事後学習 ・配布資料を読む。 ・事例をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
14	授業内容（担当教員）	行政における公衆衛生看護活動の展開（ゲストティーチャー・山下） 福岡県の保健医療福祉行政施策と保健師に期待する役割
	授業方法 / 進め方	1．講義 福岡県の保健医療福祉行政施策と保健師に期待する役割について学ぶ。 県レベルの行政施策と都道府県保健師の役割について考える。
	事前・事後学習	事前学習 ・インターネットで、福岡県健康増進計画及び地域保健医療計画を調べる。 事後学習 ・配布資料と関連計画を振り返る。 ・レポート作成 テーマ：福岡県保健師としてどのような活動をしたいか。

15	授業内容（担当教員）	まとめ(尾形)
	授業方法 / 進め方	<p>1 . 講義</p> <p>1) 住民のセルフケア能力を高め、コミュニティエンパワメントの促進とは</p> <p>2) 保健師のベストプラクティスとは</p> <p>3) 予防や生活などの視点、主体性の尊重や対等性の重視などの姿勢、協働について</p> <p>4) 社会的弱者への関心等の価値</p> <p>5) 保健師の機能として個、集団、地域を連動させた活動と自ら支援を求めない対象へのアプローチ等公共性について</p> <p>2 . ディスカッション</p> <p>ライフステージ別（母子、壮年期、高齢者）活動と健康障害別（精神、難病、感染症）活動、保健事業の企画立案評価の学習を通して、公衆衛生看護活動の特徴に対する学びについて</p>
	事前・事後学習	<p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで復習する。 ・関連する国家試験の過去問題を解く。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

科目名	在宅看護学		
科目名（英語）	Home Care Nursing		
担当教員	吉田 恭子、波止 千恵、増満 誠、手島 聖子、平塚 淳子、猪狩 崇		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

在宅で生活する療養者および家族をホリスティックにとらえ、地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組み等、在宅看護の基礎を学ぶ。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題等について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

授業内容を理解するために必要な知識・技能等

テキスト

- 有桂編集 ナーシング・グラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版、3400円
- 有桂編集 ナーシング・グラフィカ在宅看護論 地域療養を支える技術 メディカ出版、2800円

参考図書・教材等

配布資料

実務経験を生かした授業

臨床経験5年以上の経験豊富な教員が講義を担当する。

学習相談・助言体制

メールで受け付け、回答する。もしくはオフィスアワーで回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	在宅ケアの促進に向けた看護の役割を説明することができる。
(DP2)	疾病や障害とともに在宅で療養生活をおくる対象者に必要なケアを説明することができる。

思考・判断・表現

(DP3)	各種の資料を用いて対象者に適切なケアを説明することができる。
-------	--------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	施設内看護と在宅看護の相違やそれぞれの特徴を説明することができる。
-------	-----------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解すること、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解すること、これらを自己の考えを交えて他者にわかりやすく説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて理解すること、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について理解すること、これらを他者に説明できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解し、他者にわかりやすく説明でき、自己の考えを述べることができる(定期試験、レポートは90%以上得点する)。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明でき、自己の考えを述べることができる(定期試験、レポートは90%以上得点する)。

A:80~89 履修目標を達成している。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは80%以上得点する)。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは80%以上得点する)。

B:70~79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは70%以上得点する)。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは70%以上得点する)。

C:60~69 到達目標を達成している。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは60%以上得点する)。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは60%以上得点する)。

不可:~59 到達目標を達成できていない。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるような看護師の役割と機能および仕組みについて理解できていない(定期試験、レポートは60%以上得点できない)。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について理解できていない(定期試験、レポートは60%以上得点できない)。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1) : 35, (DP2) : 35, 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
授業外レポート・宿題	30	知識・技能(DP1) : 15, (DP2) : 15, 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	在宅ケアの対象者の発掘・発見期の展開と在宅看護に必要なアセスメント(吉田恭子)
	授業方法/進め方	療養者と家族の暮らしを支える在宅ケアが始まる前提と条件、専門職の役割、本人と家族、地域のアセスメント、在宅看護におけるヘルスアセスメント技術について講義する。
	事前・事後学習	事前学習: テキスト 41~45、在宅看護学概論で学習したことをまとめる。 事後学習: 確認問題を解く。
2	授業内容(担当教員)	在宅療養移行期の展開(波止千恵)
	授業方法/進め方	療養者と家族が自分たちのペースで落ち着いた生活を送るうえで必要な医療機器(主に酸素療法、人工呼吸器)を安全に使用するための支援について講義する。
	事前・事後学習	事前学習: テキスト p93~96、117~137を読む。 事後学習: 確認問題を解く。

3	授業内容（担当教員）	安定期の展開（波止千恵）
	授業方法 / 進め方	療養者の症状コントロールが重要であり、このことは在宅生活を継続できるか否かにつながる。また、家族の介護負担の軽減には、自分たちの余暇や社会活動への参加の支援が必要になることから、主に排泄ケアについて講義する。
	事前・事後学習	事前学習テキスト p137～145を読む。家族の発達段階を整理する。 事後学習：確認問題を解く。
4	授業内容（担当教員）	在宅看護を必要とする療養者の栄養ケア（平塚淳子）
	授業方法 / 進め方	フレイル、サルコペニアの概念について 在宅療養者のための栄養アセスメント、目標設定、計画立案について、事例を用いて説明する。 褥瘡管理については、プレデンスケールを用いたアセスメントとケアについて、事例を用いて説明する。DESIGN - R、NPUAP分類については、訪問看護指示書を用いて説明する。 皮膚排泄ナースとの連携について説明する。
	事前・事後学習	事前学習：フレイル、サルコペニアの概念について調べてくる。 地域療養を支えるケアP252～257、273を読んでくる。 を読んでくる。褥瘡のアセスメントスケール（プレデンスケール、DESIGN - R、NPUAP分類）について調べてくる。 事後学習：簡易栄養調査表を記入し、提出する。
5	授業内容（担当教員）	安定期の展開（吉田恭子）
	授業方法 / 進め方	療養者と家族が自分たちのペースで落ち着いた生活を送るうえで必要な医療機器（主にインスリン注射、腹膜透析）を安全に使用するための支援について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：腹膜透析、糖尿病についてワークを学習する。 事後学習：確認問題を解く。
6	授業内容（担当教員）	長期臥床状態期の展開（吉田恭子）
	授業方法 / 進め方	加齢や疾病の重度化により臥床状態になることは否めず、医療ニーズが増す。療養を支える医療ケアと重度化予防のための支援について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p150～155を読む。 事後学習：確認問題を解く。
7	授業内容（担当教員）	急性増悪期の展開（吉田恭子）
	授業方法 / 進め方	日常の生理的変動をこえる症状の急激な変化や悪化を早期にとらえ、適切な医療・治療に結びつける支援について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：心不全、呼吸不全の主な症状を整理する。 事後学習：確認問題を解く。
8	授業内容（担当教員）	在宅ケアにおけるリハビリテーション（吉田恭子、外部講師）
	授業方法 / 進め方	機能回復のみではなく生活の質の向上を目指したリハビリテーションについて講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p259～260、テキスト p46～53、p88～92を読む。パーキンソン病について整理する。 事後学習：確認問題を解く。
9	授業内容（担当教員）	難病疾患療養者の看護（猪狩崇）
	授業方法 / 進め方	難病などの特定医療技術が必要な事例を通して訪問看護活用の理解について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p176～180を読み、難病対策、医療費助成、障害者福祉対策との関連を抑えておく。 事後学習：事例の看護について説明し、提出（記述式）。

10	授業内容（担当教員）	認知症療養者の在宅ケア（吉田恭子）
	授業方法 / 進め方	認知症があっても地域での暮らしを続けるための社会資源の特徴と役割、看護上の課題について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p210～212を読む。認知症の定義、主な症状について整理する。 事後学習：確認問題を解く。
11	授業内容（担当教員）	精神疾患を有する療養者の在宅ケア（増満誠）
	授業方法 / 進め方	精神障がい者が地域で生活をつづけるための法制度の理解と社会資源の活用、看護の役割について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：自宅で暮らす精神障がい者が利用できる社会資源における、大学の周辺もしくはあなたの住んでいる近隣の施設について、どのような種類のものがあるか調べてください。 事後学習：共生社会の実現に向けて自宅で暮らす精神障がい者への、今あなたができる理解や行動について考えをまとめてください。
12	授業内容（担当教員）	がん治療中の療養者の在宅ケア（吉田恭子、外部講師）
	授業方法 / 進め方	外来における化学療法、放射線療法を受ける療養者の日常生活上の課題への支援について講義する。また、訪問看護事例では終末期が多いため、疼痛管理なども講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p263～265、テキスト p113～117を読む。 事後学習：がんの終末期と老衰の終末期の相違点をまとめ提出する。
13	授業内容（担当教員）	在宅療養終了期の展開および死別後のグリーフケア（吉田恭子）
	授業方法 / 進め方	終末期においても可能な限り在宅療養を継続するための支援と死別後の家族への支援について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p60～65を読む。映像を視聴し、気になったことをメモしておく。 事後学習：確認問題を解く。
14	授業内容（担当教員）	子どもと家族の在宅ケア（吉田恭子）
	授業方法 / 進め方	子どもの在宅療養を支える制度を確認し、在宅ケアの取り組みから、子ども本人、保護者や兄弟児を含む支援について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：脳性まひ、二分脊椎症、ダウン症（18トリソミー）、水頭症について整理する。映像を視聴し、気になったことをメモしておく。 事後学習：確認問題を解く。
15	授業内容（担当教員）	在宅ケアにおけるリスクマネジメント（吉田恭子、平塚淳子）
	授業方法 / 進め方	在宅特有のリスクが存在するため、そのリスクマネジメントについて講義する。また、減災の取り組みについて講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p188～202を読む。医療安全「看護における医療事後と安全対策(在宅および地域)ヒヤリ・ハット、医療事故の事例分析3」を復習する。映像を視聴し、気になったことをメモしておく。

科目名	女性看護学		
科目名（英語）	Women's Health Nursing		
担当教員	吉田 静、安河内 静子		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

妊産褥婦および新生児を、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの視点から理解し、エビデンスに基づいたケアを学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

女性看護学概論を履修していること。

テキスト

- 森恵美『母性看護学 [1] 母性看護学概論』、医学書院、2021 2750円
 森恵美『母性看護学 [2] 母性看護学各論』、医学書院、2021 3410円
 末岡浩『成人看護学 [9] 女性生殖器』、医学書院、2019 2530円
 石村由利子編『根拠と事故防止からみた母性看護技術第3版』 医学書院、2020 4400円
 女性看護学概論で使用した書籍および配布資料

参考図書・教材等

- ミシェル・オダン『プライマル・ヘルス』、メディカ出版、1995
 （女性看護学助手室で貸出可）
 医療情報科学研究所『病気が見えるvol.10産科』、メディックメディア、2018
 『母乳育児スタンダード』第2版、医学書院、2015

実務経験を生かした授業

周産期での臨床経験を持つ教員が授業を担当する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

質問及びその回答は、講義中およびレスポンスカードで行う。また、学習に関する相談がある場合は、メールで受付、個別に対応する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	妊産褥婦、新生児の健康を支援するために必要な看護の基礎的な知識を理解している。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	妊産褥婦、新生児に対して適切な看護を選択できる。
-------	--------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	女性の健康に関心を持ち、学習課題ノート作成にも意欲的に取り組むことができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を考えることができる。（定期試験正解率80%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する）

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなどの視点から理解し、母子の健康を支援するための知識と看護を考えることができる。（定期試験正解率60%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する）

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を十分に理解している。 (定期試験正解率90%以上、完成度の高い学習課題ノートを作成し、期限までに提出する)
A:80～89 履修目標を達成している。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を考えることができる。 (定期試験正解率80%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する)
B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を考えることができる。 (定期試験正解率70%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する)
C:60～69 到達目標を達成している。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなどの視点から理解し、母子の健康を支援するための知識と看護を考えることができる。 (定期試験正解率60%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する)
不可:～59 到達目標を達成できていない。
定期試験正解率60%未満、学習課題ノートが期限までに提出できない

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1)：60，思考・判断・表現(DP3)：10
学習課題ノート	20	知識・技能(DP1)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
授業の参加態度	10	知識・技能(DP1)：5，思考・判断・表現(DP3)：5

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	妊娠の理解と看護1(妊娠のメカニズムと変化) (吉田)
	授業方法/進め方	初回講義であるため、講義の進め方、講義中の約束事項と諸注意、女性看護学 学習課題についてのオリエンテーションを行う。講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。妊娠のメカニズム、妊婦の身体の変化、胎児の発育・発達について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第2章妊娠期における看護：A妊娠期の身体的特性、B妊娠期の心理・社会的特性を読み、母性看護の基盤となる概念、第3章を読む。 事後：テキスト ～ を用いて女性看護学 学習課題(妊娠期)についてまとめる。

2	授業内容（担当教員）	妊娠の理解と看護2（妊娠各期の看護） （吉田）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。妊婦の健康診査、妊娠各期の妊婦の理解と看護について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第2章妊娠期における看護：C妊婦と胎児のアセスメント、D妊婦と家族の看護を読む。テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。 事後：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。
3	授業内容（担当教員）	妊娠の理解と看護3（妊娠期の異常） （吉田）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。妊娠期の母体、胎児の異常について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第6章妊娠の異常と看護を読む。テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。 事後：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。
4	授業内容（担当教員）	産婦の理解と看護1（分娩の経過と胎児の健康） （吉田）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。分娩の経過とメカニズム：分娩の3要素、分娩の前兆、分娩経過、胎児の産道通過機転健康状態の把握と必要な看護などを詳細に講義する。DVD視聴を通じ、分娩期の理解の促進を図る。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第4章分娩期における看護：を読む。テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。 事後：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。
5	授業内容（担当教員）	産婦の理解と看護2（分娩各期の産婦の理解と看護） （吉田）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。前回の授業内容の理解を深めるための復習時間を設けた後、分娩各期の産婦の理解と看護を講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第4章分娩期における看護と、テキスト の第2章産婦のケアを読む。テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。 事後：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。

6	授業内容（担当教員）	産婦の理解と看護3（分娩期の異常） （吉田）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、分娩期の異常である。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第4章分娩期における看護とテキスト の第2章産婦のケアを読む。テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。 事後：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。
7	授業内容（担当教員）	褥婦の理解と看護1（産褥経過とメカニズム、褥婦の看護） （安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。産褥経過とメカニズム、褥婦の退行性変化、進行性変化を中心に褥婦のアセスメント、セルフケア支援について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第6章産褥期における看護：A産褥経過 産褥期の身体的変化、B褥婦のアセスメント ~ 、C褥婦と家族の看護 ~ を読む。 事後：テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（産褥期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。
8	授業内容（担当教員）	褥婦の理解と看護2（褥婦の看護と母乳育児支援） （安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。産褥経過とメカニズム、褥婦の進行性変化と母乳育児支援を中心に褥婦のアセスメント、セルフケア支援について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第6章産褥期における看護：A産褥経過 産褥期の身体的変化、B褥婦のアセスメント ~ 、C褥婦と家族の看護 ~ を読む。 事後：テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（産褥期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。
9	授業内容（担当教員）	褥婦の理解と看護3（愛着形成、親性発達、母子相互作用他） （安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。産褥の心理・社会的変化、愛着形成、親性発達、母子相互作用、入院中から施設退院後までの育児支援について講義する。
	事前・事後学習	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。産褥の心理・社会的変化、愛着形成、親性発達、母子相互作用、入院中から施設退院後までの育児支援について講義する。
10	授業内容（担当教員）	褥婦の理解と看護4（産褥期の異常） （安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。産褥期の異常について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第7章産褥の異常と看護を読む。 事後：テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（産褥期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。

11	授業内容（担当教員）	新生児の理解と看護1（新生児の生理） （安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。新生児とは（定義）、新生児の子宮外適応、新生児の発育・発達について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第4章新生児期における看護：A新生児の生理を読む。 事後：テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（新生児）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。
12	授業内容（担当教員）	新生児の理解と看護2（プライマル・ヘルスと新生児） （安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。プライマルヘルスの視点から新生児の健康、愛着などについて講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第4章新生児期における看護：B新生児アセスメントを読む。 テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（新生児）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。 事後：作成した事前学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。
13	授業内容（担当教員）	新生児の理解と看護3(新生児の異常) （安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。新生児の生理的範囲からの逸脱、新生児の異常、新生児の看護について講義する。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第4章新生児期における看護：B新生児アセスメントを読む。 テキスト ~ を用いて女性看護学 学習課題（新生児）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。 事後：作成した事前学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。
14	授業内容（担当教員）	ライフステージから見た女性の健康と看護 （吉田）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、更年期、老年期女性の健康と看護などに関する講義を行う。
	事前・事後学習	事前：テキスト の第5章女性のライフステージ各期における看護を読む。 事後：更年期障害の症状と緩和のための看護援助の内容を学習課題ノートに追加する。

15	授業内容（担当教員）	女性看護学のまとめ （吉田、安河内）
	授業方法 / 進め方	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、女性看護学分野における国家試験問題・定期試験問題を意識し講義する。また女性看護学演習・実習オリエンテーションを行い、次年度の準備性を高めることができるように講義する。
	事前・事後学習	事前：学習課題ノートを完成させる。 事後：教員のチェックを終え返却された学習課題ノートに関して、不足している内容を学習課題ノートに追加する。

科目名	小児看護学		
科目名(英語)	Pediatric Nursing		
担当教員	田中 美樹、吉川 未桜		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

小児看護学概論の内容をふまえ、健康問題および障がいをもつ小児の特徴、健康問題をもつ小児と家族の看護、症状を示す小児の看護、検査・処置・手術を受ける小児の看護などを解説する。また、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療を概説し、病態・経過にそった看護を解説する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

生体機能看護学で修得した解剖生理学、小児看護学概論で学習した子どもの成長発達段階

テキスト

中野綾美他；ナースンググラフィカ小児看護学 小児の発達と看護 メディカ出版
 中野綾美他；ナースンググラフィカ小児看護学 小児の疾患と看護 メディカ出版

参考図書・教材等

各回の講義内で別途資料を配布する。

実務経験を生かした授業

小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、小児各期の成長発達および支援について教授する。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。
 研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。メールでの相談も受け付けています。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	健康問題をもつ小児について発達の特徴と関連させて説明できる。 小児期の主要な疾患の病態・経過別の看護をエビデンスに基づいて説明できる。 小児の検査・処置・手術における看護師の役割について説明できる。 小児の入院・外来通院・在宅療養時における看護師の役割について説明できる 小児期によくみられる症状のアセスメントと必要な看護ケアについて説明できる。 小児の健康問題が家族に与える影響と支援について説明できる。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	事例に示された小児期の主要な疾患の病態・症状、検査・診断、治療について、文献を活用し具体的に記述できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

健康問題をもつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

健康問題をもつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解し、自分の言葉で説明することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて、具体的に分かりやすく記述し、探究的に学習することができる（定期試験およびレポートの総合価で90%以上獲得）。

A: 80～89 履修目標を達成している。

健康問題をもつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて、具体的に記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で80%以上獲得）。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で70%以上獲得）。

C: 60～69 到達目標を達成している。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について最低限の内容を理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容を記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で60%以上獲得）。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	60	知識・技能(DP1) : 60
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1) : 30
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1) : 5, 思考・判断・表現(DP3) : 5
備考	再試験を実施する	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

授業内で提示する事例（課題）について考察する。

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	健康障害や入院がもつ子どもと家族におよぼす影響 / 外来における子どもと家族の看護（田中）
	授業方法 / 進め方	講義 動画（事例）などを用い学生同士で意見を出し合い考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト 第3章 - 1, 7を読む。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
2	授業内容（担当教員）	検査や処置を受ける子どもと家族の看護（田中）
	授業方法 / 進め方	講義 プリパレーションの概念について動画を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト 第3章 - 5を読む。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

3	授業内容（担当教員）	子どもの予防接種（田中）
	授業方法 / 進め方	講義 「私の健康履歴」の自身の抗体価検査結果についてアセスメントする。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第2章 p107～112、テキスト 第5章p96～115を読む。 「私の健康履歴」をまとめ、抗体価検査結果に目を通しておく。 事例課題を行い提出する。 講義内容をふまえ、自分自身の予防接種歴、抗体値（検査結果）に興味をもち見直し確認する。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
4	授業内容（担当教員）	小児がんの子どもと家族への看護 / 終末期にある子どもと家族への看護（吉川）
	授業方法 / 進め方	講義 小児がんの子どもと家族の思いなどについて動画や事例を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第10章p200～211、テキスト 第3章 - 4を読む。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
5	授業内容（担当教員）	手術を受ける子どもと家族への看護 / 痛みのある子どもと家族への看護（田中）
	授業方法 / 進め方	講義 子どもの痛みの特徴と対応について動画や事例を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第3章 - 6、第4章 - 5 事例を読む。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
6	授業内容（担当教員）	集中治療を受けている子どもと家族への看護（先天性心疾患） （田中）
	授業方法 / 進め方	講義 先天性心疾患の子どもと家族の看護について事例等を交えて講義する
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第4章 - 1、第7章を読む。 事例課題を行い提出する。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。

7	授業内容（担当教員）	急性期にある子どもと家族の看護（気管支炎・肺炎）（吉川）
	授業方法 / 進め方	講義 子ども急性期疾患（気管支炎・肺炎）の看護について、事前学習の内容をふまえ、動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第6章を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
8	授業内容（担当教員）	先天的な健康問題をもつ子どもと家族への看護/在宅における子どもと家族の看護（田中）
	授業方法 / 進め方	講義 在宅療養中の子どもと家族の看護について動画を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第3章 - 8、第4章 - 3、4を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
9	授業内容（担当教員）	子どもによくみられる疾患 （田中医師）
	授業方法 / 進め方	講義 IgA血管炎などについて事例や看護師国家試験問題等を提示しながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第4章 - 7、8、第6章 - 4、第9章 - 4、第10章 - 2、第12章 - 3、7を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
10	授業内容（担当教員）	子どもによくみられる疾患 （田中医師）
	授業方法 / 進め方	講義 ネフローゼ症候群などについて事例や看護師国家試験問題等を提示しながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第3章 - 3、第4章 - 7、8、第6章 - 4、第8章 - 1、2、第9章 - 4、第10章 - 2、第12章 - 3、7を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。

11	授業内容（担当教員）	急性期にある子どもと家族の看護（子ども急性期症状）（田中）
	授業方法 / 進め方	講義 動画や事例を用い講義する。 事例の子どもの重症度を捉える方法を考える。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第3章 - 2を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
12	授業内容（担当教員）	急性期にある子どもと家族の看護（川崎病）（吉川）
	授業方法 / 進め方	、事前学習の内容をふまえ、動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第4章 - 7および、9回目の講義資料「川崎病」を復習する。 事例課題を行い提出する。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
13	授業内容（担当教員）	慢性期にある子どもと家族の看護（気管支喘息）（吉川）
	授業方法 / 進め方	、事前学習の内容をふまえ、動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第6章 - 5および、10回目の講義資料「気管支喘息」を復習する。 事例課題を行い提出する。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
14	授業内容（担当教員）	慢性疾患にある子どもと家族の看護（ネフローゼ・IDDM） （吉川）
	授業方法 / 進め方	動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第3章 - 3、第8章 - 1、2および、10回目講義資料「ネフローゼ症候群」「型糖尿病」を復習する。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
15	授業内容（担当教員）	災害を受けた子どもと家族の看護（田中）
	授業方法 / 進め方	講義 災害時の子どもの身体・精神的な影響と支援について、動画等を用いながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習 テキスト 第3章 - 9、10を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
備考	履修の順番が変更になることがあります。	

科目名	精神看護学		
科目名（英語）	Psychiatric and Mental Health Nursing		
担当教員	村方 多鶴子、中本 亮、安永 薫梨		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「精神看護学概論」を学修していること。

関連資格

看護師国家試験受験資格

テキスト

- ・吉松和哉、小泉典章、川野雅資、『精神看護学Ⅰ - 精神保健学 - 』、第6版、ヌーヴェルヒロカワ、2019、2420円
- ・川野雅資編集、『精神看護学Ⅱ - 精神臨床看護学 - 』、第6版、ヌーヴェルヒロカワ、2020、2970円

参考図書・教材等

- 小谷英文、宇佐美しおり、「PASセルフケアセラピィ」PAS心理教育研究所、2020
- 小谷英文、「精神分析的システムズ心理療法」PAS研究所、2018
- 野嶋佐由美監修、「実践看護技術学習支援テキスト：精神看護学」、日本看護協会出版会、2011
- 宇佐美しおり、鈴木啓子、Patricia Underwood、「オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開」第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011
- 田中美恵子、「精神看護学 学生 患者のストーリーで綴る実習展開」、医歯薬出版株式会社、2015

実務経験を生かした授業

看護師としての実務経験を生かし、授業を展開する。

学習相談・助言体制

レスポンスカードや研究室を訪ねての御相談、御意見、御質問に応じます。研究室を訪ねる場合は、事前に電話やメールでアポイントメントをとることが望ましい。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	看護の対象者に看護を提供する視点や技術を説明できる。
	看護の対象者の障害の種類や状態像に応じた看護の提供方法について説明できる。
	治療やリハビリテーションを受ける対象者への看護の方法を説明できる。
	精神に障害をもつ人の地域移行を促進する看護について説明できる。
	精神に障害をもつ人の地域定着を促進する看護について説明できる。
	リスクマネジメントにおける看護師の役割と姿勢、システム改善のあり方、精神看護に特有のリスクとマネジメント方法を説明できる。
	身体疾患のために精神的な困難をもつ人のセルフケアを促進する看護について説明できる。
	自分や他者に活用できるメンタルヘルスを促進する方法を説明できる。
質の高い看護を提供するために必要な看護師のメンタルヘルスを促進する方法を説明できる。	

思考・判断・表現

(DP3)	看護の対象者となる人の経験を理解し、対象者の視点から看護のあり方を考察し、表現することができる。
	精神科看護に関する文献を読み、今後の精神科看護のあり方について、考察し、表現することができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を授業で教員が提示した内容を踏まえて自主的に図書や論文を検索して十分に内容を深く理解できる。レポートでは教員が提示した参考文献に加えて、自主的に図書や論文を収集して学修し、論点に沿って、自分の生活や体験、感情、行動を振り返り、考察し、それらを他者にわかりやすく説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を内容は浅いが一通り理解できる。レポートでは教員が提示した参考文献を活用して、内容は浅いが一通り、論点に沿って、自分の生活や体験、感情、行動を振り返り、考察し、それらを他者に説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	60	知識・技能(DP1) : 60
授業外レポート・宿題	40	知識・技能(DP1) : 20, 思考・判断・表現(DP3) : 20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

精神科看護に関するグループディスカッション、グループワークを取り入れながら、講義を進めていく。

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	<p>< 村方 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳の仕組みと精神機能 ・精神疾患の基礎知識 ・精神科で行われる主な検査 ・主な精神疾患と治療
	授業方法 / 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「精神看護学」に関するオリエンテーションを行う。 2. 以下の内容に沿って、講義を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1)脳の仕組みと精神機能 2)精神疾患の基礎知識 3)精神障害の分類(DSM-5) 4)精神疾患とは 5)臨床検査 6)心理検査 7)主な精神疾患 (1)物質関連障害とは <ul style="list-style-type: none"> ・アルコール依存症とは <p>4. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p>< 事前学習 > (60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学)p62-80を読んでくる。 <p><事後学習 > (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートは後日、お知らせします。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>

2	授業内容（担当教員）	<p><村方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な精神疾患（統合失調症、気分障害、睡眠障害）
	授業方法 / 進め方	<p>1. グループディスカッション：「統合失調症を持つ患者」のイメージについて</p> <p>2. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 統合失調症とは</p> <p>2) 気分障害とは</p> <p>3) 睡眠障害とは</p> <p>3. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p><事前学習> (60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学)p138-146を読んでくる。 ・統合失調症に関する映像をインターネットや図書館などで探し、視聴し、統合失調症を持つ患者をイメージする。 ・気分障害に関する映像をインターネットや図書館などで探し、視聴し、気分障害を持つ患者をイメージする。 <p>(DP1)</p> <p><事後学習> (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートは後日、お知らせします。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループ・ワーク

3	授業内容（担当教員）	<p><安永> 主な精神疾患（不安障害、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害、境界性人格障害）と治療</p>
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)不安障害と治療</p> <p>2)強迫性障害と治療</p> <p>3)心的外傷後ストレス障害(PTSD)、外傷後ストレス反応(PTSR)と治療</p> <p>4)境界性人格障害と治療</p> <p>2. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p><事前学習> (60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（精神看護学 ）p.146-152を、 p157-160読んでくる。 ・不安障害、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害、境界性人格障害に関する映像を図書館やインターネットなど用いて視聴し、それぞれの疾患を持つ患者をイメージする。 <p>(DP1)</p> <p><事後学習> (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートは後日、お知らせします。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>

4	授業内容（担当教員）	<p><村方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース像の形成 ・主な状態像と看護：幻覚・妄想、意欲の減退、抑うつ状態、躁状態
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義と意見交換を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ケース像の形成：バーチャルハルシネーションの体験 2) グループディスカッション：事例を示し、幻覚、妄想を持つ患者への看護 3) 幻覚・妄想状態にある患者への看護 4) 意欲の減退の患者への看護 5) グループディスカッション：事例を示し、抑うつ状態にある患者への看護について 6) 抑うつ状態にある患者への看護 7) 躁状態にある患者への看護 <p>2. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p><事前学習> (60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学)p224-232、p292-297を読んでくる。 <p>(DP1)</p> <p><事後学習> (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートは後日、お知らせします。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

5	授業内容（担当教員）	<p><安永></p> <p>・主な状態像（不安、強迫、怒り、操作）と看護</p>
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 不安状態の患者への看護</p> <p>(不安の強い患者への看護、被災者への支援、ケア提供者の二次性心的外傷後ストレス障害の予防など)</p> <p>2) 強迫行為のある患者への看護</p> <p>3) 怒りの強い患者への看護</p> <p>4) 操作性の高い患者への看護</p> <p>2. グループディスカッション：事例を示し、不安の強い患者への効果的な看護について</p> <p>3. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p><事前学習> (60分)</p> <p>・テキスト(精神看護学)p289-291,303-307,258-263を読んでくる。</p> <p>(DP1)</p> <p><事後学習> (120分)</p> <p>・課題レポートは後日お知らせします。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。</p> <p>・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。</p> <p>(DP1,3)</p>
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	

6	授業内容（担当教員）	<p>< 安永 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な状態像と看護：衝動性、攻撃性、怒り、依存、摂食行動障害 ・ 症状マネジメント
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 衝動性のコントロールが困難な患者への看護 2) 怒りを持つ患者への看護 3) 依存する患者への看護 4) 摂食行動障害を持つ患者への看護 5) 症状マネジメント <p>2. 事例を示し、怒りを看護師に向ける患者への効果的な看護について、意見交換</p> <p>3. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p>< 事前学習 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト(精神看護学)p274-282、318-324を読んでくる。 <p>(DP1)</p> <p>< 事後学習 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題レポートは授業当日にお知らせ。 ・ 授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・ レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

7	授業内容（担当教員）	<p>< 村方 > 移行期にある精神に障害をもつ人とその家族への看護</p>
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 精神科医療と福祉の現状と課題（国の地域移行、地域定着に関する方針、制度、施策など）</p> <p>2) 地域移行支援</p> <p>3) 地域定着支援</p> <p>4) 急性期にある精神に障害をもつ人の地域移行を促進する技術</p> <p>5) 多職種チームによる支援</p> <p>急性期からの地域移行に必要な看護</p> <p>6) 長期入院患者の地域生活への移行を促進する技術</p> <p>2. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p>< 事前課題 > (30分)</p> <p>国の地域移行、地域定着に関する厚生労働省の資料を読む。</p> <p>(DP1)</p> <p>< 事後課題 > (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題レポートは授業当日にお知らせ。 ・ 授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・ レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>

8	授業内容（担当教員）	<p><外部講師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活する精神に障害をもつ人の地域定着を促進する技術 <p>（山本智之；くおーれ訪問看護ステーション）</p>
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外部講師の自己紹介 2) 地域で生活する精神に障害を持つ人の地域定着を促進する看護について(事例を用いて) 3) 患者の地域定着を促進するために必要な入院中の看護 4) 「地域で看護を展開する楽しさ」について <p>2. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p><事前学習> (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学) p218-p222を読んでくる。 <p>(DP1)</p> <p><事後課題> (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加して、感じたことや学んだことをレポートにまとめる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3) <事前学習> (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学) p218-p222を読んでくる。 <p>(DP1)</p> <p><事後課題> (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加して、感じたことや学んだことをレポートにまとめる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>

9	授業内容（担当教員）	<p>< 村方 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体療法を受ける人とその家族の看護：薬物療法、電気けいれん療法、光照射療法
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法 2) 薬物療法を受ける患者への看護 3) コンコーダンススキル 4) 電気けいれん療法 5) 修正型の電気けいれんを受ける患者への看護 6) 光照射療法 7) 光照射療法を受ける患者への看護 <p>2. 拒薬する患者への効果的な看護について、意見交換</p> <p>3. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p>< 事前学習 > (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学) p74-p93を読んでくる。 <p>(DP1)</p> <p>< 事後学習 > (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートは授業当日にお知らせ。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

10	授業内容（担当教員）	<p>< 安永 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神療法を受ける人とその家族への看護
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)精神療法</p> <p>2)個人精神療法</p> <p>3)認知行動療法</p> <p>4)PASセルフケアセラピー</p> <p>5)集団精神療法</p> <p>6)グループダイナミクス</p> <p>7)精神療法を受ける人とその家族の看護</p> <p>2. 実際に隣の席、もしくは周辺に座っている人と精神療法の導入の部分をやってみる。</p> <p>3. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p>< 事前学習 > (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学)p94-105を読んでくる。 <p>(DP1)</p> <p>< 事後学習 > (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートは授業当日にお知らせ。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>

11	授業内容（担当教員）	<p>< 中本 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対人関係能力を育成する技術 ・ リハビリテーションを受ける人とその家族の看護
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って講義を行う。</p> <p>1) リハビリテーションの定義</p> <p>2) 障害者とは</p> <p>3) 精神看護学領域における主なリハビリテーションプログラム</p> <p>(1) 社会生活技能訓練（SST） 演習</p> <p>(2) 精神科作業療法</p> <p>(3) 心理教育</p> <p>(4) 住居プログラム</p> <p>(5) その他</p>
	事前・事後学習	<p>< 事前学習 > (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト（精神看護学 ）p.106～117を読んでくる。 ・ 適宜お知らせする。 <p>(DP1)</p> <p>< 事後学習 > (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜お知らせする <p>(DP1,3)</p>
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

12	授業内容（担当教員）	<p>< 村方 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体疾患のために精神的な課題をもつ人のセルフケアを促進する技術
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って講義を行う。</p> <p>1) 身体疾患と精神の関係とは</p> <p>2) 身体疾患のために精神的な課題をもつ人のセルフケアを促進する後術について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せん妄の理解と看護ケア <p>2. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p>< 事前学習 > (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学) p60-p69を読んてくる。 <p>(DP1)</p> <p>< 事後学習 > (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートは授業当日にお知らせ。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>

13	授業内容（担当教員）	<p>< 中本 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレス緩和とコーピングを強化する技術 ・ 看護師のメンタルヘルスを促進する技術
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ストレスとは 2) ストレスと脳の関係 3) ストレスチェックをしてみよう 4) 医療従事者の仕事の特徴 5) メンタルヘルスとは 6) 職場のメンタルヘルスの「4つ」の視点 7) ストレスマネジメント
	事前・事後学習	<p>< 事前学習 > (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト(精神看護学) p120-p140を読んでくる。 ・ 「NHKスペシャルキラーストレス第1回、第2回」などストレスに関する映像をインターネットや図書館などで探し、視聴し、自分のストレスについて考えてくる。 <p>(DP1)</p> <p>< 事後学習 > (150分)</p> <p>自分のストレス、ストレスマネジメントについて再考する。</p> <p>(DP1)</p>

14	授業内容（担当教員）	<p><外部講師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスを促進する技術～WRAPを活用して～ <p>（WRAPわかば）</p>
	授業方法 / 進め方	<p>1. 特別講師の自己紹介（体験談、現在取り組んでいる活動など）</p> <p>2. WRAPの説明</p> <p>3. 「元気回復行動プラン」作成のためのグループワークを行う。</p>
	事前・事後学習	<p><事前学習> (60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WRAPについて、文献などを用いて、調べる。 ・WRAPに関する映像をインターネットや図書館を活用して視聴する。 <p>（DP1）</p> <p><事後学習> (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者の方の話を聞いて感じたこと、実際にWRAPに参加して、感じたこと、気づいたこと、学びをレポートにまとめる。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>（DP1,3）</p>
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

15	授業内容（担当教員）	<p><安永></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科におけるリスクマネジメント
	授業方法 / 進め方	<p>1. 以下の内容に沿って講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科におけるリスクマネジメントとは 2) 病棟環境の整備 3) 自殺、自殺企図、自傷行為 4) 暴力、暴力予防プログラム、暴力と臨床判断 5) 隔離・身体拘束 6) 静脈血栓塞栓症 7) 無断離院 8) 事故発生時の対応 9) 事故をなくすために <p>2. まとめ</p>
	事前・事後学習	<p><事前学習> (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(精神看護学) p184-p202を読んで、問題意識を持つ。 <p>(DP1)</p> <p><事後学習> (150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科看護に関する著書を読み、「今後の精神科看護のあり方」について考察しレポートにまとめる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。 <p>(DP1,3)</p>

科目名	老年看護学		
科目名（英語）	Gerontological and Geriatric Nursing		
担当教員	中井 裕子、櫛 直美、清原 智佳子		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴を理解し、健康障がいをもつ対象の健康課題をとらえるための基礎的知識を学ぶ。さらに老年期にある人とその家族の課題解決にむけての看護ケアの方法について考察する。また保健・医療・福祉の制度を通して健康支援システムの理解および多職種との連携における看護の役割と機能を学ぶ。老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴を理解し、健康障がいをもつ対象の健康課題をとらえるための基礎的知識を学ぶ。さらに老年期にある人とその家族の課題解決にむけての看護ケアの方法について考察する。また保健・医療・福祉の制度を通して健康支援システムの理解および多職種との連携における看護の役割と機能を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

人体の解剖・生理学、病態，加齢による身体的・精神的変化について学修しておくこと

関連資格

看護師国家試験受験資格

テキスト

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院

参考図書・教材等

- ・老年看護学概論「老いを生きる」を支えるとは 南江堂
- ・系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院
- ・その他必要に応じて配布資料

実務経験を生かした授業

看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

レスポンスカードで受け付け、メールまたは次回授業終了後に回答する。リモートでの回答については双方向によるオンラインにより回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P	
知識・技能	
(DP1)	老年期の加齢によって生じる心身機能症状が日常生活に及ぼす影響について理解している。 老年期の主な疾患や健康障がいについて知識を理解している。
(DP2)	保健・医療・福祉チームにおける多職種の専門性を尊重し、超高齢社会における老年看護の役割と機能について理解している。
思考・判断・表現	
(DP3)	健康障がいをもった老年期にある人の健康課題をとらえ、老年期にある人とその家族支援について看護援助を考察し、述べることができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴とそれに伴う健康障がいについて十分に理解できる。また老年期にある人とその家族の課題解決にむけて多職種連携の在り方や必要な制度について十分理解ができる。（定期試験、小テストで90%以上得点する。）

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴とそれに伴う健康障がいについて理解できる。また老年期にある人とその家族の課題解決にむけて多職種連携の在り方や必要な制度について理解ができる。（定期試験、小テストで60%以上得点する。）

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
定期試験	80	知識・技能(DP1)：40，(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：10
授業内レポート・小テスト	10	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	高齢者の健康生活とアセスメント (棟)
	授業方法/進め方	老年看護概論を想起させ、ヘルスアセスメントの基本としての枠組みについて、Lawtonの活動能力の図を用いて生活機能の評価について概説する。高齢者における健康の定義をICFの概念、高齢者総合機能評価(CGA)を活用した、多角的評価におけるヘルスアセスメントの重要性について理解を深めていく。
	事前・事後学習	事前学習：老年看護概論を想起し、加齢による身体的、精神的、社会的変化の特徴について十分理解しておく。 高齢者における健康の考え方についてテキスト第4章高齢者のヘルスアセスメントを熟読し、アセスメントの方法を整理しておく。 事後学習：講義で配布された資料も活用して、高齢者のヘルスアセスメントの際に活用する枠組みや、概念の意義について自己学習ノートに整理し、高齢者における健康の定義についてレポートする。

2	授業内容（担当教員）	認知症高齢者の病態、診断、治療 (棟)
	授業方法 / 進め方	認知症の特徴を客観的、主観的両側面から学ぶ。 講義内容 動向と制度 診断基準、原因疾患、中核症状とBPSD 原因疾患に対する薬物療法
	事前・事後学習	事前学習：テキスト「老年看護学概論 老いを生きるを支えることとは」 p 259～271、「老年看護 病態・疾患論」 p 135～149を読む。 事後学習：認知症の代表的な疾患を1つ選択し、病態や特徴的な症状などを整理し、レポートする。
3	授業内容（担当教員）	認知症高齢者の看護 (棟)
	授業方法 / 進め方	加齢と認知症の症状による心身や生活への影響を考え、認知症高齢者の体験世界をイメージし、それに合わせた看護を考える。 講義内容 認知症高齢者のアセスメント方法 主要な原因疾患と看護 アプローチ方法、療法について
	事前・事後学習	事前学習：テキスト「老年看護学概論 老いを生きるを支えることとは」 p 273～282を読む。 事後学習：認知症高齢者の体験世界について、中核症状と、それが心身や生活にどのように影響するか、必要な看護は何かを考えレポートする。

4	授業内容（担当教員）	<p>高齢者の生活機能障がいと看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢による摂食・嚥下機能の変化 ・老年病による摂食嚥下障害と栄養障害 ・食生活への支援 <p>（棟）</p>
	授業方法 / 進め方	<p>まず高齢者における食生活の意義について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容として</p> <ul style="list-style-type: none"> 加齢による摂食・嚥下機能の変化について 老年病として、脳血管疾患、肺炎、認知症、廃用症候群、薬物の影響による摂食・嚥下障害、栄養障害について 食生活のアセスメントの方法 食生活への看護援助について 高齢者の脱水予防について
	事前・事後学習	<p>事前学習：嚥下のメカニズム及び老年期の特徴的な疾患である脳血管疾患、肺炎についての基礎知識を学修しておく。栄養アセスメントの方法について整理する。その上で高齢者における食生活の意義について考える。</p> <p>事後学習：摂食・嚥下障害のある高齢者の食生活への看護援助について、食事前、食事中、食後のケアについてレポートする。</p>
5	授業内容（担当教員）	<p>高齢者の生活機能障がいと看護</p> <p>排泄障害と看護援助</p> <p>（尿失禁・便失禁、便秘・排尿・排便コントロールと排泄ケア）</p> <p>（棟）</p>
	授業方法 / 進め方	<p>高齢者に多い排泄の問題について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の排泄ケアの基本について 排尿障害(頻尿、尿失禁)、排便障害(便失禁、便秘、下痢)とアセスメントの方法について 排尿障害と排便障害の看護援助について
	事前・事後学習	<p>事前学習：排泄のメカニズムについて学修しておく。高齢者に多い排泄の問題について何があるのか、またその問題が生じているメカニズムを理解しておく。</p> <p>事後学習：事例での排便困難のある高齢者のアセスメントと看護援助についてレポートする。</p>

6	授業内容（担当教員）	高齢者の生活リズムと廃用症候群の予防 (中井)
	授業方法 / 進め方	<p>加齢による睡眠の変化を理解し、活動と休息のバランスを考える。また廃用症候群に高齢者がなぜ陥りやすいのかについて理解し、予防するために必要な看護について考えを述べる。</p> <p>廃用症候群とはどのような症状があるのか、またなぜ高齢者が陥りやすいのかについて学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容 高齢者の生活リズムとは 高齢者に特徴的な睡眠の変調 生活リズムのアセスメントについて 生活リズムを整える看護援助について 寝たきりの定義と評価スケール、アセスメントツール(障害老人の日常生活自立度、FIM等)活用について 高齢者の廃用症候群に陥りやすいメカニズムと症状について 廃用症候群を予防するための看護援助について 褥瘡発生のメカニズムと予防について</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習：廃用症候群とはどのような症状があるのか、そのメカニズムについて理解しておく。(DP2)</p> <p>事後学習：高齢者が長期安静臥床を強いられることで生じる、筋、骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系、皮膚系について整理する。(DP2)</p>
7	授業内容（担当教員）	<p>身体疾患のある高齢者の看護</p> <p>脳卒中を患う高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期の看護 ・回復期の看護 ・維持期の看護 <p>(櫛)</p>
	授業方法 / 進め方	<p>加齢による身体的変化と脳血管疾患の関連について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容 脳卒中後遺症；片麻痺、失語症、高次脳機能障害が高齢者の生活に及ぼす影響について 脳卒中の事例を通して、ICFの概念を用いて後遺症を伴う高齢者の社会参加への支援について考察する。グループワークの実施。7 回復期、維持期でのリハビリテーション看護の重要性と看護援助について提案する。</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習：脳血管疾患(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。(DP2・3)</p> <p>事後学習：脳卒中後遺症；片麻痺、失語症、高次脳機能障害がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。(DP2・3)</p>

8	授業内容（担当教員）	<p>身体疾患のある高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患）をもつ高齢者の看護 ・循環器系疾患(心不全)をもつ高齢者の看護 <p>（中井）</p>
	授業方法 / 進め方	<p>加齢による身体的変化と肺炎、慢性閉塞性疾患及び心不全の関連について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容 視聴覚教材により高齢者の循環器系の変化について理解する。 呼吸器系疾患の肺炎、慢性閉塞性疾患が生活に及ぼす影響について事例を通して考え、グループワークを実施しアセスメントから看護実践方法を提案につなげる 心不全が生活に及ぼす影響について事例を通して考え、看護援助につなげる</p> <p>○講義前に小テストの実施</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習：呼吸器系疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患）、循環器系疾患(心不全)の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。</p> <p>事後学習：慢性閉塞性疾患及び心不全がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。（DP2・3）</p>
9	授業内容（担当教員）	<p>身体疾患のある高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨・筋肉の加齢変化と骨折 ・腰痛、関節痛 ・転倒予防 <p>（清原）</p>
	授業方法 / 進め方	<p>加齢による身体的変化と骨折、関節痛、筋力低下の関連について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容 加齢による骨、関節、筋肉への影響について 腰痛、関節痛が生活に及ぼす影響について 高齢者に多い転倒と骨折について 大腿骨頸部骨折で手術を受けた高齢者の看護について</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習：骨代謝について理解しておく。大腿骨頸部骨折の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。</p> <p>事後学習：慢性閉塞性疾患及び心不全がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。</p>

10	授業内容（担当教員）	高齢者のリハビリテーション看護 （外部講師）
	授業方法 / 進め方	寝たきりにならないための回復期、維持期での効果的なリハビリテーション看護の重要性と看護援助について提案する。
	事前・事後学習	事後学習：多職種連携による生活リハビリテーションにおける看護師の役割についてレポートにまとめる。
11	授業内容（担当教員）	高齢者の健康段階に応じた看護 高齢者の急性期看護 入院・検査・手術・薬物療法 （清原）
	授業方法 / 進め方	高齢者の疾病の特徴について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 検査を受ける高齢者の看護 加齢による薬物動態への影響について 薬物動態薬物療法を受ける高齢者の看護 手術を受ける高齢者の看護 5高齢者に起こりやすい合併症について；せん妄、呼吸器合併症
	事前・事後学習	事前学習：薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄について理解しておく。術前・術後の看護援助について調べておく。（DP2・3） 事後学習：高齢者の薬物療法における援助として服薬アドヒアランスを促進するための支援について考えをレポートする。
12	授業内容（担当教員）	高齢者をとり巻く保健・医療・福祉制度 （榛）
	授業方法 / 進め方	高齢者の生活を支えるための保健・医療・福祉制度について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 日本が直面する高齢者問題について 高齢者福祉制度の変遷 高齢者の医療に関する法律と制度について 介護保険制度とその活用について 認知症支援のための制度について
	事前・事後学習	事前学習：高齢者の生活を支えるための保健・医療・福祉制度にどのようなものがあるのかを調べておく。介護保険制度の仕組みについて理解しておく。 事後学習：高齢者の生活を支えるためのフォーマルサービス、インフォーマルサポートについて、居住地域を対象に調べレポートする。

13	授業内容（担当教員）	高齢者と家族の権利擁護と生活・療養を支える仕組み・ケアマネジメント (棟)
	授業方法 / 進め方	高齢者とその家族をサポートするためのケアマネジメントの視点について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 高齢者虐待の特徴について 権利擁護のための制度創設について 多職種連携による学際的チームアプローチについて 施設ケアプランの作成の視点について ○講義前に小テストの実施
	事前・事後学習	前学習：高齢者とその家族をサポートするためのケアマネジメントの視点について調べておく。 事後学習：事例を通して施設ケアマネジメントの手法に基づきケアプランを作成する。
14	授業内容（担当教員）	終末期看護と看とり支援 ・老いてなくなることについての理解 ・尊厳ある看取りにおける看護師の役割 ・高齢者を看取る家族に対する看護師の役割 (外部講師)
	授業方法 / 進め方	終末期にある高齢者の特徴を理解し、尊厳ある看取りにむけて看護ケアの方法を考える。 講義内容 老いと死について 高齢者の死亡の動向について 終末期の概念について 終末期医療と意思決定について 尊厳ある看取りにおける看護師の役割について 高齢者の家族への支援について
	事前・事後学習	事前学習：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの概要について調べる。また、アドバンスケアについて調べておく。 事後学習：あなたが考える高齢者のエンドオブライフについてレポートする。

15	授業内容（担当教員）	高齢者家族の特徴と家族支援 (棟)
	授業方法 / 進め方	<p>家族介護者の介護適応のための看護支援について必要な視点を学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容 視聴覚教材により家族介護者の自己実現とはどういうことかについて考える 新聞記事による家族介護者の苦悩と制度の限界について 事例を用いて、要介護者とその家族の支援について多職種連携での意義や看護師の役割りを考察する。</p>
	事前・事後学習	<p>事前学習：家族介護者の状況についてニュースや新聞記事より事例を切り抜き、その要因について考えておく。</p> <p>事後学習：認知症高齢者を抱える家族介護者の支援において、多職種連携での看護職の役割についてレポートする。</p>

科目名	社会調査実習		
科目名（英語）	Practical Training in Social Research		
担当教員	黒川 すみれ、坂無 淳、福本 純子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査実習を通して、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する。社会調査実習では、社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査までの、社会調査に必須の過程を実際のプロジェクトを通して体験し、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること。

2年次に「社会調査の設計」「社会統計学I・II」を必ず履修すること。

テキスト

調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。

参考図書・教材等

Takuo Utagawa ed 2013 『Social Research and Evaluation of Poverty Reduction Project』ハーベスト社。調査テーマに関連した参考図書・教材等を、随時担当者から説明する。

実務経験を生かした授業

行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
-------	------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	・社会的課題を公共性の観点から整理できる。 ・社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。 ・公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

(1) 社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、(2) 自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができること、(3) 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できること、(4) 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができることを目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
その他	100	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	調査設計・調査内容: 30%、分析水準・報告書の内容: 40%、出席・参加度: 30%。	

授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション
	授業方法/進め方	テーマにより調査グループを編成 左の内容について概略を講義する
	事前・事後学習	・調査原案の作成 ・調査企画
2	授業内容(担当教員)	社会調査の意義、方法、スケジュールリング、実施上の留意事項の確認
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
3	授業内容(担当教員)	調査企画(テーマの設定、調査対象/フィールドの検討)
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	事前・事後学習	・調査企画・仮説の作成
4	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する文献講読
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
5	授業内容(担当教員)	調査対象に関する文献やデータの収集
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
6	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する既存研究成果の整理
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
7	授業内容(担当教員)	仮説の検討(仮説を構成する変数の検討)
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
8	授業内容(担当教員)	仮説導出
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う

9	授業内容（担当教員）	調査票作成（質問項目・質問文作成）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
10	授業内容（担当教員）	調査票作成（調査票の全体構成を検討）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	調査票作成
11	授業内容（担当教員）	調査票作成（ワーディングをチェック）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
12	授業内容（担当教員）	サンプリングの種類と方法の確認
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	対象者選定
13	授業内容（担当教員）	調査対象 / フィールドの現地調査
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
14	授業内容（担当教員）	調査対象 / フィールドの関係者からのヒアリング
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
15	授業内容（担当教員）	サンプリング実施（サンプリング作業とノウハウ）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	サンプリング、実査
16	授業内容（担当教員）	サンプリング実施
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
17	授業内容（担当教員）	調査対象者の名簿入力
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
18	授業内容（担当教員）	調査実施プロセスの確認、プリテスト
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
19	授業内容（担当教員）	プリテストの実施
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
20	授業内容（担当教員）	プリテストの結果についての討論
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
21	授業内容（担当教員）	調査票の再検討
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
22	授業内容（担当教員）	調査票の確定、実査マニュアルの作成
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
23	授業内容（担当教員）	実査の準備（郵送用封筒等の準備）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
24	授業内容（担当教員）	実査の準備（調査票の封入と郵送）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う

25	授業内容（担当教員）	実査（問い合わせ対応）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
26	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
27	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
28	授業内容（担当教員）	エディティング準備
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
29	授業内容（担当教員）	入力シートの作成
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
30	授業内容（担当教員）	実査までのプロセスに対するレポート作成
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。	

科目名	社会調査実習		
科目名（英語）	Practical Training in Social Research		
担当教員	黒川 すみれ、坂無 淳、福本 純子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査実習を通して、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する。社会調査実習では、社会調査実習で得られたデータのエディティング、コーディング、入力作業、データセットの作成、集計・分析、報告書の作成という社会調査に必須の過程を体験し、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- 1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること。
- 2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。
- 社会調査実習Ⅰを履修・単位修得していること。

テキスト

調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。

参考図書・教材等

Takuo Utagawa ed 2013『Social Research and Evaluation of Poverty Reduction Project』ハーベスト社。調査テーマに関連した参考図書・教材等を、随時担当者から説明する。

実務経験を生かした授業

行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
-------	------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	・社会的課題を公共性の観点から整理できる。 ・社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。 ・公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- (1) 社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、(2) 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できること、(3) 社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できること、(4) 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができることを目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80 ~ 89 履修目標を達成している。

B: 70 ~ 79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60 ~ 69 到達目標を達成している。

不可: ~ 59 到達目標を達成できていない。

成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
その他	100	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	調査設計・調査内容: 30%、分析水準・報告書の内容: 40%、出席・参加度: 30%。	

授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

実習

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	調査プロセス、分析方法、報告書執筆についての確認
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
2	授業内容(担当教員)	データエディティング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	事前・事後学習	データセット作成
3	授業内容(担当教員)	回収調査票の最終チェック
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
4	授業内容(担当教員)	コーディング表の作成、入力作業のノウハウ
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
5	授業内容(担当教員)	コーディング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
6	授業内容(担当教員)	データ入力作業
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
7	授業内容(担当教員)	データ入力作業
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
8	授業内容(担当教員)	データクリーニング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う

9	授業内容（担当教員）	データセット確認
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
10	授業内容（担当教員）	データの読み取りと集計・分析ソフトの使い方に関するディスカッション
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
11	授業内容（担当教員）	データ集計（単純集計）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
12	授業内容（担当教員）	データ分析（単純集計結果の分析）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	各種の分析手法によりデータ分析を行う
13	授業内容（担当教員）	データ集計（属性と他項目のクロス集計）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
14	授業内容（担当教員）	データ分析（属性と他項目のクロス集計結果の分析）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
15	授業内容（担当教員）	データ集計（主要項目間のクロス集計）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
16	授業内容（担当教員）	データ分析（主要項目間のクロス集計の分析）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
17	授業内容（担当教員）	データ分析から得られた知見のまとめ
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
18	授業内容（担当教員）	中間発表会のプレゼンテーションの準備
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
19	授業内容（担当教員）	中間発表会
	授業方法 / 進め方	データ分析結果の中間発表会。分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める。
20	授業内容（担当教員）	中間発表会
	授業方法 / 進め方	データ分析結果の中間発表会。分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める。
21	授業内容（担当教員）	報告書の構成案作成、執筆分担決定
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・報告書を執筆する ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	報告書の構想を検討
22	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（調査実施概要）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・報告書を執筆する ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	報告書執筆

23	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（単純集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
24	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（属性と他項目のクロス集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	報告会を行う。今回の調査で得られた反省点を討議する。
25	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（主要項目間のクロス集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
26	授業内容（担当教員）	仮説の検証と考察
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
27	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（仮説検証結果の説明）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
28	授業内容（担当教員）	報告書原稿に関する検討会
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
29	授業内容（担当教員）	検討会での意見を踏まえて報告書原稿修正
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
30	授業内容（担当教員）	報告書原稿完成、公開（プレゼンテーション）
	事前・事後学習	調査の全過程を点検
備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。	

科目名	多文化社会論		
科目名(英語)	Multi-cultural Societies		
担当教員	岡本 雅享		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許(公民)、中学校教諭一種免許(社会)		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

第1部は多文化主義の概念と諸外国の多文化社会を概観し、第2部では近代国家形成以降、日本に加わった琉球、アイヌ、在日コリアンと1980年代以降増加した難民、移民の観点から、日本の多民族社会化を考える。第3部は同質だと思われがちな日本人内部の多様性について、民族概念の発生や文化、言語、宗教の観点から考える。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等
講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。

テキスト

各回の内容に合わせて、担当教員の著作などを配布

参考図書・教材等

岡本雅享『民族の創出』岩波書店、『なぜ今、移民問題か』藤原書店、
『マイノリティの権利とは 日本における多文化社会の実現にむけて』解放出版社、他

実務経験を生かした授業

移住者・難民問題にかかわる全国組織のNGOスタッフ、役員を務めた経験から、日本各地で暮らす在日外国人や難民、各自治体が行う多文化共生などを、現場の状況を含めながら解説する

学習相談・助言体制

質問票の配付と回答(次回講義時)他。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的事象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。
-------	------------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

異なる文化・価値観に深い関心を持ち、主体的に学習した上で、自らの考えを適切に他者に説明することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

異なる文化や価値観に関して関心を持ち、歴史や現状を踏まえ、客観的に理解することができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
各回講義時の意見や考察	45	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
学期内レポート課題	20	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
期末レポート	35	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	期末レポートを提出しない場合、成績は「不可」になる。講義中 講義に無関係な私語を続ける、ゲームをしたり漫画を読んでいる、机に伏して寝ている受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度として減点する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	多文化社会と多文化主義(講義の概要)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
2	授業内容(担当教員)	欧米の多文化主義
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
3	授業内容(担当教員)	ハワイの日系人と文化、信仰の共存
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
4	授業内容(担当教員)	中国の少数民族教育と言語政策
	授業方法/進め方	講義 第1回レポート課題
	事前・事後学習	配付資料を読む
5	授業内容(担当教員)	アイヌ民族の承認と文化振興法
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
6	授業内容(担当教員)	在日コリアンの歴史・現状と直面する教育・文化的問題
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
7	授業内容(担当教員)	移民・難民の到来と多文化共生の提唱
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
8	授業内容(担当教員)	ゼノフォビアと歪んだ人種主義:ヘイトスピーチの拡散
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
9	授業内容(担当教員)	無意識の偏見と共生社会 - 「人種差別をなくす実験授業」で考える
	授業方法/進め方	講義 第2回レポート課題
	事前・事後学習	配付資料を読む
10	授業内容(担当教員)	混合から単一民族論へ:同質社会観の形成
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
11	授業内容(担当教員)	言語の多様性:ドラマ「国語元年」が問いかけるもの
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む

12	授業内容（担当教員）	多様な信仰とオープンマインドな島国観
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
13	授業内容（担当教員）	多様な列島社会と地域の歴・、文化・言語の復権運動（1）南九州のクマソ復権運動
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
14	授業内容（担当教員）	多様な列島社会と地域の歴・、文化・言語の復権運動（2）東北のアテルイ復権運動
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
15	授業内容（担当教員）	多文化社会・日本：1人1人の個性が大切にされる社会へ
	授業方法 / 進め方	講義 期末レポート課題
	事前・事後学習	配付資料を読む

科目名	地域計画論		
科目名（英語）	Regional Planning		
担当教員	美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では、地方自治体の計画行政のしくみについて概説するとともに、具体的な市町村などの計画を題材にして、現在の地方行政における主要な課題と政策や施策・事業を取り上げ、その現状について検討します。なお、本講義は公共社会学科の「公務員受験支援プログラム」における自治体研究を取り扱う内容に位置づけられています。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。特に、中盤ではグループワーク（作業と発表）が中心となるので、出欠にはくれぐれも注意し、積極的に課題に取り組むようにしてください。

また、予備知識も必要としませんが、講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。

なお、本講義では地方行政の具体的な「中身」に関する内容を中心としますので、地方行政の基本的なしくみなどの「制度」に関心のある方は、「地方自治論」などの講義も受講するようにしてください。

テキスト

特に指定しません。毎回、資料を配布します。

参考図書・教材等

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の4点を挙げておきます。

- ・ 阿部 齊ほか『地方自治の現代用語 第2次改訂版』，学陽書房，2005年．
- ・ 金井利之『実践自治体行政学 自治基本条例・総合計画・行政改革・行政評価』，第一法規，2010年．
- ・ 柴田直子・松井 望編『地方自治論入門』，ミネルヴァ書房，2012年．
- ・ 増田 正ほか編『地域政策学事典』，勁草書房，2011年．

実務経験を生かした授業

地方公共団体職員の経験のある教員が、さまざまな市町村などの総合計画を題材に、受講生による分析実習を含めながら、計画行政のしくみや政策形成の実態について解説します。

学習相談・助言体制

講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・ 地方自治体における計画行政のしくみや、そこで展開される政策や施策・事業についての知識を身につけている。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	・ 地域社会の現状と課題について自ら考えることができる。 ・ 地域社会の課題の解決手法としての計画や政策のあり方についての的確に説明できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

地方自治体で実施されている政策や計画の内容から、地域社会の課題とその対応策について読み取り、その妥当性について考察するとともに、よりよいあり方について提案することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

地方自治体で実施されている政策や計画の内容から、地域社会の課題とその対応策について読み取ることができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
期末レポート	40	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3)
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3)
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

第5回以後は、少人数のグループに分かれての地方自治体の総合計画の内容比較とディスカッション, その発表を行います。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	イントロダクション: 講義内容の説明
	授業方法/進め方	講義
2	授業内容(担当教員)	計画行政のしくみ(1): 計画行政の役割と歴史
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習
3	授業内容(担当教員)	計画行政のしくみ(2): 計画と政策
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習
4	授業内容(担当教員)	計画行政のしくみ(3): 地方自治体の計画体系
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習
5	授業内容(担当教員)	地方自治体の総合計画の比較分析(1): 地域課題の認識と目指すべき地域像
	授業方法/進め方	作業(実習課題), 発表
	事前・事後学習	作業内容の復習, 次回作業の準備
6	授業内容(担当教員)	地方自治体の総合計画の比較分析(2): 主要コンセプトと施策体系
	授業方法/進め方	作業(実習課題), 発表
	事前・事後学習	作業内容の復習, 次回作業の準備, 作業レポートの作成準備
7	授業内容(担当教員)	地方自治体の総合計画の比較分析(3): 重点施策と戦略プロジェクト
	授業方法/進め方	作業(実習課題)
	事前・事後学習	作業内容の復習, 次回作業の準備, 作業レポートの作成
8	授業内容(担当教員)	地方自治体の総合計画の比較分析(4): 重点施策と戦略プロジェクト
	授業方法/進め方	作業(実習課題), 発表
	事前・事後学習	作業内容の復習, 次回作業の準備

9	授業内容（担当教員）	地方自治体の総合計画の比較分析（5）：策定手法と進行管理
	授業方法 / 進め方	作業（実習課題），発表
	事前・事後学習	作業内容の復習
10	授業内容（担当教員）	計画行政と分野別政策（1）：福祉・保健分野
	授業方法 / 進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
11	授業内容（担当教員）	計画行政と分野別政策（2）：生活環境・地域自治分野
	授業方法 / 進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
12	授業内容（担当教員）	計画行政と分野別政策（3）：産業・経済分野
	授業方法 / 進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
13	授業内容（担当教員）	計画行政と分野別政策（4）：都市基盤分野
	授業方法 / 進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成準備
14	授業内容（担当教員）	計画行政と分野別政策（5）：教育分野
	授業方法 / 進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義
備考	<p>「地方自治体の総合計画の比較分析」（第5～9回）では，受講生各自の作業とその発表を中心に進めます。それ以外の回については，原則として，オーソドックスな講義形式で進めますが，各回の講義の後半部分では，グループで作業課題に取り組む時間を設けたいと考えています。</p>	

科目名	地域社会分析法C		
科目名(英語)	Regional and Community Analysis C		
担当教員	美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許(公民)、中学校教諭一種免許(社会)		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

「地域社会」を分析するツールの1つとして、人文地理学で用いられる質的・量的分析の手法について取り上げ、受講生が実際に作業を行うことで、それらを身につけていくことを目的とします。その前段としての統計資料の収集方法や分析結果の表現方法としての地図化の手法などについても紹介していきます。分析の結果を受講生間で共有し、より当該事象を理解しやすい地理情報の表現手法についての議論もしたいと考えています。

教職との関連では、中学校社会の地理的分野の「C 日本の様々な地域」における「(1)地域調査の手法」に係る指導法や教材作成のための技能を身につけることを主たる目的とします。ただし、本学科の設置目的を踏まえ、分析・作業の題材については、地域社会の課題や地方自治の諸問題に係るものも取り上げることとし、高等学校公民の現代社会の「(1)私たちの生きる社会」、同政治・経済の「(3)現代社会の諸課題」における「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」を教授するのに必要な知識や技能を得るという位置づけとします。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

履修条件は特にありませんが、実習的な位置づけの科目で作業量が相当多いので、その点はあらかじめご承知おきください。また、指示があった場合には、色鉛筆(12色程度)、定規、電卓(スマートフォンのアプリレベルで構いません)を用意してください。学期の中盤では、屋外での実習を行うことがありますので、その際には服装等に注意してください(事前に連絡します)。

関連資格

中学校教諭一種免許状(社会):選択, 高等学校教諭一種免許状(公民):選択, 上級情報処理士:領域2選択

テキスト

特に指定しません。毎回、資料を配布します。

参考図書・教材等

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。

- ・ 野間晴雄ほか編『ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖』, 海青社, 2012年.
- ・ 半澤誠司ほか編『地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの道具箱』, ナカニシヤ出版, 2015年.
- ・ 梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』, ナカニシヤ出版, 2007年.

実務経験を生かした授業

地方公共団体職員の経験のある教員が、政策形成への応用を念頭に置き、受講生による分析実習を含めながら、地域課題に関する量的・質的分析手法や結果の表現手法について解説します。

授業中の撮影

あり

学習相談・助言体制

講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人文地理学で活用される質的・量的な分析手法を身につけている。 ・ さまざまな研究のテーマにふさわしい調査・分析手法を選択し、適切にデータを収集・分析することができる。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らが実施した分析の結果について、地理情報を用いて的確に説明できる。 ・ 主題図を中心とした地図表現の基礎やGISの活用方法を習得し、それらを活用して自らの研究結果をわかりやすく説明できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

自らが関心をもつ地域社会の課題について、情報やデータを収集して分析を行い、その結果についての的確に説明し、考察したその解決方法についてわかりやすく説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

自らが関心をもつ地域社会の課題について、情報やデータを収集して分析を行い、「見える化」することができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
期末レポート	40	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP2), 思考・判断・表現(DP3)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
屋外での調査実習を行うほか、作業(実習課題)について、少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり、ディスカッションを行うことがあります。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	イントロダクション:講義内容の説明
	授業方法/進め方	講義
2	授業内容(担当教員)	地域統計と地図表現(1):地域統計の種類と収集方法
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習, 実習課題の結果整理
3	授業内容(担当教員)	地域統計と地図表現(2):さまざまな地図
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習
4	授業内容(担当教員)	地域統計と地図表現(3):主題図の種類と表現方法 現代社会の諸問題を統計と地図で表現する教材作成と指導法
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習
5	授業内容(担当教員)	質的データの収集方法(1):アンケート調査と聞き取り調査
	授業方法/進め方	講義, 作業(実習課題)
	事前・事後学習	講義内容の復習

6	授業内容（担当教員）	質的データの収集方法（2）：土地利用調査（準備）
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，各自の調査準備
7	授業内容（担当教員）	質的データの収集方法（3）：土地利用調査（調査）
	授業方法／進め方	野外実習
	事前・事後学習	調査結果の整理
8	授業内容（担当教員）	質的データの収集方法（4）：土地利用調査（まとめ） 地域調査に係るカリキュラム構成と教材研究
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，調査結果のレポート作成
9	授業内容（担当教員）	地域統計の分析方法（1）：特化係数
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，作業レポートの作成準備
10	授業内容（担当教員）	地域統計の分析方法（2）：修正ウィーバー法
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，作業レポートの作成
11	授業内容（担当教員）	地域統計の分析方法（3）：回帰分析と相関係数
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
12	授業内容（担当教員）	パソコンでの地図作成（1）：既存デジタル地図の加工 GISを活用した授業展開と情報機器活用の留意点
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
13	授業内容（担当教員）	パソコンでの地図作成（2）：円積図・階級区分図の作成
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成準備
14	授業内容（担当教員）	パソコンでの地図作成（3）：分布図の作成
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成
15	授業内容（担当教員）	各自の期末レポートの報告 教科指導法としての人文地理学の諸手法の意義と留意点
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
備考	<p>テーマによって多少の相違は出ますが，講義の当初に分析の手法などの解説を行い，その後，提示した課題について作業を行い，結果を提出するという形で進めます。作業のボリュームが多く，講義時間中に作業が完了しないこともあるため，必要に応じて，課外の時間に各自で作業を進めてもらう形になります。また，野外実習については，新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を踏まえて，授業計画を変更する形で実施する場合があります。</p>	

科目名	地方自治論		
科目名（英語）	Local Autonomy		
担当教員	美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

地方自治の理念や歴史、しくみ、担い手など、地方自治に関わる基本的な概念や考え方について、身近な地域の事例なども取り上げながら解説していきます。ベーシックな講義形式ですが、講義中に課す小課題や作業レポートを通じて、受講生とともにあるべき地方自治や地域の姿について考えていきます。（なお、地方自治体における具体的な政策論については、別途開講の「地域計画論」のなかで取り上げます。）

教職との関連では、中学校社会の公民的分野の「C 私たちと政治」における「民主政治と政治参加」、高等学校公民の現代社会の「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」における「イ 現代の民主政治と政治参加の意義」、同政治・経済の「(1) 現代の政治」における「ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」及び「(3) 現代社会の諸課題」における「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」を教授するのに必要な知識や技能を得るという位置づけになります。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

公共社会学科の選択必修科目です。

履修条件は特にありません。また、予備知識も必要としませんが、講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。

関連資格

中学校教諭一種免許状（社会）：選択，高等学校教諭一種免許状（公民）：選択

テキスト

以下の文献をテキストに指定します。テキストを購入している前提で講義を進めます。

- ・ 柴田直子・松井 望編『地方自治論入門』，ミネルヴァ書房，2012年．

参考図書・教材等

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の2点を挙げておきます。

- ・ 阿部 齊ほか『地方自治の現代用語＜第二次改訂版＞』，学陽書房，2005年．
- ・ 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』，北樹出版，2007年．

実務経験を生かした授業

地方公共団体職員の実務経験のある教員が、現場での実態を踏まえながら、地方自治に係る制度や自治の担い手について解説します。

学習相談・助言体制

講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・ 地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解している。
(DP2)	・ 地方自治を取り巻くさまざまな動向に関心を持ち、情報を収集することができる。

思考・判断・表現

(DP3)	・ 地方自治を取り巻く諸問題について自らの考えを説明できる。
-------	--------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解するとともに、地方自治を取り巻くさまざまな動向について情報を収集してその課題を把握し、対応策について自らの考えを説明することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

地方自治に係る基礎的な概念やしぐみについて理解し，地方自治を取り巻くさまざまな動向について具体的な関心を寄せることができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
期末レポート	40	知識・技能(DP1)，(DP2)，思考・判断・表現(DP3)
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1)，(DP2)，思考・判断・表現(DP3)
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1)，(DP2)，思考・判断・表現(DP3)

授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

作業（実習課題）について，少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり，ディスカッションを行うことがあります。

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	講義ガイダンス 地方自治の意義と必要性
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
2	授業内容（担当教員）	地方自治の意義と必要性
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
3	授業内容（担当教員）	地方自治のしくみ（1）：日本の地方自治制度の歴史
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
4	授業内容（担当教員）	地方自治のしくみ（2）：日本の地方自治制度の歴史
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
5	授業内容（担当教員）	地方自治のしくみ（3）：地方分権改革と地方自治制度の変容
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
6	授業内容（担当教員）	地方自治のしくみ（4）：市区町村と都道府県
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
7	授業内容（担当教員）	地方自治のしくみ（5）：大都市制度と広域行政
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
8	授業内容（担当教員）	地方自治の担い手（1）：議会
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，作業レポートの作成準備

9	授業内容（担当教員）	地方自治の担い手（2）：自治基本条例と自治の担い手
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，作業レポートの作成
10	授業内容（担当教員）	地方自治の担い手（3）：市民・住民（住民の機能・住民組織）
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
11	授業内容（担当教員）	地方自治の担い手（4）：首長と執行機関
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
12	授業内容（担当教員）	地方自治の担い手（5）：市民・住民（参加・選挙）
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習
13	授業内容（担当教員）	地方自治体の経営（1）：地方財政と予算
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成準備
14	授業内容（担当教員）	地方自治体の経営（2）：地方公務員制度
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
	事前・事後学習	講義内容の復習，期末レポート（レポートの場合）の作成
15	授業内容（担当教員）	地方自治体の経営（3）：組織と機構管理
	授業方法／進め方	講義，作業（実習課題）
備考	毎回，テキストの説明と板書により講義を進めます。また，各回の講義の終盤では，取り上げたテーマについての自治体間での比較などの作業や，簡単なグループワークを取り入れていく予定です。	

科目名	倫理学		
科目名(英語)	Ethics		
担当教員	神谷 英二		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許(公民)、中学校教諭一種免許(社会)		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

現代医学は人間の誕生・生存・死亡のあらゆる局面に高度な技術をともなって関わり、多くの倫理上の課題を生み出し、現代社会に生きる限り誰もがこれらの倫理問題と無関係ではいられない。また、生命倫理の問題に対処することは、福祉社会において活躍する専門的職業人にとっては必要不可欠の能力である。内容としては、インフォームド・コンセント、SRHR、安楽死と尊厳死、緩和ケア、認知症などを中心に授業を展開する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし。

関連資格

高等学校教諭一種免許(公民)、中学校教諭一種免許(社会)

テキスト

なし。

参考図書・教材等

授業時に、配付する。

実務経験を生かした授業

医療機関で研究倫理及び臨床倫理審査と医療職の研修を行っている教員が、現場での知見を踏まえて授業を行う。

学習相談・助言体制

疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問を常時受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	生命倫理学の基礎を習得する。
-------	----------------

思考・判断・表現

(DP3)	生命倫理の問題に直面した際に、自分自身で責任ある判断をし、その内容を説明できる基礎スキルが身についている。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえて、考えるとともに、自分の考えをわかりやすく表現できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

生命倫理学の基礎を習得している。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	50	知識・技能(DP1) : 25, 思考・判断・表現(DP3) : 25
授業外レポート・宿題	50	知識・技能(DP1) : 25, 思考・判断・表現(DP3) : 25

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

ケーススタディ

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス
	授業方法/進め方	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容(担当教員)	倫理学と生命倫理 Covid-19と生命倫理
	授業方法/進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
3	授業内容(担当教員)	生命倫理の歴史 生命倫理の4原則
	授業方法/進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
4	授業内容(担当教員)	インフォームド・コンセントと患者の権利
	授業方法/進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
5	授業内容(担当教員)	インフォームド・コンセントと患者の権利
	授業方法/進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習
6	授業内容(担当教員)	インフォームド・コンセントと患者の権利
	授業方法/進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習

7	授業内容（担当教員）	性と生殖に関する健康と権利(SRHR)
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
8	授業内容（担当教員）	性と生殖に関する健康と権利(SRHR)
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
9	授業内容（担当教員）	性と生殖に関する健康と権利(SRHR)
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
10	授業内容（担当教員）	安楽死と尊厳死
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
11	授業内容（担当教員）	安楽死と尊厳死
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
12	授業内容（担当教員）	緩和ケアと患者の物語
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
13	授業内容（担当教員）	緩和ケアと患者の物語
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
14	授業内容（担当教員）	認知症の生命倫理
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習

15	授業内容（担当教員）	認知症の生命倫理
	授業方法／進め方	「講義資料」の学習 ケーススタディ
	事前・事後学習	「作業課題」をすること。 「講義資料」を復習すること。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職		
科目名（英語）	Values and Ethics in Social Work		
担当教員	本郷 秀和		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では「相談援助の基盤と専門職」の学習内容を基礎とし、(1)ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、(2)総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容、(3)ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、の3つのテーマを軸に授業を展開する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職」（1年前期）を必ず履修しておくこと。
- ・他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。
- ・情報処理室を使用する場合がある（使用不可の場合：インターネット及びワードやパワーポイントが使用できるノートパソコンを持参できる体制を整えておくことが望ましい。）

関連資格

社会福祉士受験予定の方は必ず履修すること（指定科目）

テキスト

教科書：中央法規「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）」（*社会福祉コースの「ソーシャルワークの基盤と専門職」（1年前期）と同じ教科書を使用）

参考図書・教材等

参考図書：九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和）『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』、学文社、2022年2月発行、3630円（税込）。
（*本辞典は、他の科目でも使用予定）

実務経験を生かした授業

社会福祉士や精神保健福祉士としての実務経験を踏まえた講義を行いたいと思います。

授業中の撮影

状況に応じてあります。

学習相談・助言体制

基本的には講義終了前の5分程度の質疑応答の時間を取りたいと思いますが、授業以外やメールでも対応します。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を基盤とした総合的・包括的なソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。 ・ミクロ・メゾ・マクロの視点からソーシャルワークを説明できる。 ・福祉関連の資格や業務について複数説明できる。 ・多職種連携の意義や方法の概略を説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名の例を他人に分かりやすく複数説明できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・地域を基盤とした総合的・包括的なソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロの視点からソーシャルワークを説明できる。
- ・福祉関連の資格や業務について複数説明できる。
- ・多職種連携の意義や方法の概略を説明できる。
- ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名の例を他人に分かりやすく複数説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・地域を基盤とした総合的・包括的なソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロの視点からソーシャルワークを説明できる。
- ・福祉関連の資格や業務について複数説明できる。
- ・多職種連携の意義や方法の概略を説明できる。
- ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名の例を他人に分かりやすく複数説明できる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
到達目標の内容に対して、ほぼ完全に説明できる。	
A:80～89	履修目標を達成している。
到達目標の内容に対して、おおむね説明できる。	
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
到達目標の内容に対して、ある程度説明できる。	
C:60～69	到達目標を達成している。
到達目標の内容に対して、最低限のポイントを説明できる。	
不可:～59	到達目標を達成できていない。
到達目標の内容に対して、全てまたは殆ど説明できない。	

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	100	知識・技能(DP1)：100

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーションと倫理的ジレンマの復習
	授業方法/進め方	対面授業(原則)、プリント配布と解説予定
	事前・事後学習	教科書6-8章の目次を読んでくること。
2	授業内容(担当教員)	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
	授業方法/進め方	教科書を中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。

3	授業内容（担当教員）	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
	授業方法 / 進め方	教科書を中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
4	授業内容（担当教員）	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
	授業方法 / 進め方	教科書を中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
5	授業内容（担当教員）	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
	授業方法 / 進め方	教科書を中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
6	授業内容（担当教員）	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
	授業方法 / 進め方	教科書と多職種連携に関するDVDを視聴し、多職種連携の意義についてイメージ化しながら確認・理解する。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
7	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	各自興味・関心があるソーシャルワーク領域と職種・職名と業務概要等について1つを調査する。（関心がある領域毎に小グループで取り組む：非接触型グループワーク、4人以下程度を想定）*できるだけパソコンを持参すること。パワーポイントでレポート報告予定。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイパート / グループワーク
8	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	各自興味・関心があるソーシャルワーク領域と職種・職名と業務概要等について1つを調査する。（関心がある領域毎に小グループで取り組む：非接触型グループワーク、4人以下程度を想定）*できるだけパソコンを持参すること。パワーポイントでレポート報告予定。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイパート / グループワーク
9	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	前回の課題が終われば、グループ別報告と質疑応答
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイパート / グループワーク
10	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	グループ別報告と質疑応答
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイパート / グループワーク

11	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	グループ別報告と質疑応答
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んてくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	教科書でのソーシャルワーク専門職のまとめ、必要に応じてDVDを視聴する。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んてくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
13	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	教科書でのソーシャルワーク専門職のまとめ、必要に応じてDVDを視聴する。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んてくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
14	授業内容（担当教員）	社会福祉の関連資格について
	授業方法 / 進め方	プリントを配布し、説明予定。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んてくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
15	授業内容（担当教員）	小テストと解説、質疑応答
	授業方法 / 進め方	プリントを配布し、説明予定。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んてくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
備考	小テストは60%以上を単位認定要件としています。学習内容は予定ですので、学習状況や関心に合わせて多少調整することがあります。	

科目名	ソーシャルワーク演習B		
科目名(英語)	Foundations of Social Work Practice B		
担当教員	村山 浩一郎、寺島 正博、畑 香理、今村 浩司		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

ソーシャルワーク演習Aの学びをふまえて、社会的排除・危機状態にある事例、低所得者・ホームレスの事例、医療福祉における患者への援助事例などの具体的な事例を活用し、支援を必要としている人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。また、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。なお、授業は最初と最後の全体授業を除いて、4グループに分かれて別の教室で行う。各グループは、各教員から7回ずつ授業を受ける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
 ソーシャルワーク演習Aを履修していることが望ましい。

関連資格

社会福祉士

テキスト

必要な資料・レジュメは各授業で配布する。

参考図書・教材等

必要な資料・レジュメは各授業で配布する。

実務経験を生かした授業

病院、福祉施設等でソーシャルワーカーとしての実務経験がある教員(3名)が、その経験を活かして、ソーシャルワークの実技指導を行う。

学習相談・助言体制

4名の担当教員のうち、本学教員に関してはオフィスアワーや当該授業前後の時間、非常勤教員に関しては当該授業の前後の時間に相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を実践的に理解し、習得している。 ・専門的援助技術を概念化・理論化し、体系立てていくことができる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活課題や地域課題を検討し、それらの課題に対するソーシャルワークの実践方法を根拠に基づいて自分なりに提案できる。 ・ソーシャルワークの実践方法について他者と協議し、その成果を適切に表現できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

具体的な実践事例の検討などを通してソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を習得し、実践できる。具体的な実践事例の検討などで活用する専門的援助技術を概念化・理論化し体系立てていくことができる。具体的な事例から援助が必要な生活課題や地域課題を抽出し、その課題に対するソーシャルワークの実践方法を根拠に基づいて自分なりに提案できる。グループディスカッションなどにより、課題に対するソーシャルワークの実践方法について協議し、その成果を適切に表現できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

具体的な実践事例の検討などを通してソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を理解していることを示すことができる。具体的な実践事例の検討などで活用する専門的援助技術を概念化・理論化できる。具体的な事例から援助が必要な生活課題や地域課題を抽出し、その課題に対するソーシャルワークの実践方法を検討できる。グループディスカッションなどにより、課題に対するソーシャルワークの実践方法について協議できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
実技演習(提出物やプレゼンを含む)	60	知識・技能(DP2): 30, 思考・判断・表現(DP3): 30
授業態度・授業への参加度	40	知識・技能(DP2): 20, 思考・判断・表現(DP3): 20

授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
 第1回、30回の全体授業以外は、すべての授業で、小グループでの事例検討、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、受講生による発表、ロールプレイなどが行われる。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション(全体授業)
	授業方法/進め方	講義(全教員)、質疑応答
	事前・事後学習	各教員より、事前・事後学習の課題を提示する。
2～8	授業内容(担当教員)	社会的排除・危機状態にある事例を取り上げ、ケース発見、インタビュー、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアといった具体的な場面を想定した実技指導を行う。また、実技指導にあたっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどを含める。
	授業方法/進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習(寺島正博: 7回×4グループ)
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題の学習 「ソーシャルワークの理論と方法」で学んだ実践アプローチの学習

9～15	授業内容（担当教員）	低所得者・ホームレスの事例を取り上げ、ケース発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアといった具体的な場面を想定した実技指導を行う。また、実技指導にあたっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどを含める。
	授業方法 / 進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（今村浩司：7回×4グループ）
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題の学習 生活保護法、生活困窮者自立支援法、ホームレス自立支援法の学習
16～22	授業内容（担当教員）	医療福祉における患者への援助事例を取り上げ、ケース発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアといった具体的な場面を想定した実技指導を行う。また、実技指導にあたっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどを含める。
	授業方法 / 進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（畑香理：7回×4グループ）
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題 医療保険制度、介護保険制度、成年後見制度の学習
23～29	授業内容（担当教員）	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価などについて実技指導を行う。
	授業方法 / 進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（村山浩一郎：7回×4グループ）
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題の学習 「地域福祉論」で学んだコミュニティワークの学習
30	授業内容（担当教員）	全体のふりかえりとまとめ（全体授業）
	授業方法 / 進め方	講義（全教員）、質疑応答
	事前・事後学習	各自、これまでの学びのふりかえりを行っておく
備考	受講生は4グループに分かれ、各グループは4名の担当教員から各7回の授業を受ける。	

科目名	ソーシャルワーク実習A		
科目名(英語)	Fieldwork in Social Work A		
担当教員	村山 浩一郎、本郷 秀和、奥村 賢一、廣田 久美子、河野 高志、寺島 正博、松岡 佐智、畑 香理、豊福 圭代、戸丸 純一		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

科目情報

授業概要

後期(原則、春季休業期間中)に、8日間程度(60時間以上)、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等においてソーシャルワーク実習を行う。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

ソーシャルワーク実習指導 において、出席やレポートの提出期限を守った者。

関連資格

社会福祉士国家試験受験資格

テキスト

特になし

参考図書・教材等

「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」
必要に応じてプリントなどを配布する。

実務経験を生かした授業

各種社会福祉機関・施設・病院等に勤務する相談援助実習指導者の資格をもつ職員が、実践を踏まえたスーパービジョンを行う。

学習相談・助言体制

担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。

DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を実践的に理解することができる。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握することができる。 ・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・ソーシャルワークに係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践できる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を、積極的に示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を、積極的に示すことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・ソーシャルワークに係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解できる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。
B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69	到達目標を達成している。
不可: ~ 59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
実習評価票に基づく実習先の評価内容	50	知識・技能(DP2) : 25, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 25
実習態度及び実習への参加度	50	知識・技能(DP2) : 25, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 25

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
実習指導者の下で社会福祉士の実践及び業務の体験

回	授業計画	
1 ~ 15	授業内容 (担当教員)	<p>本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は以下の事項を体験的・実践的に修得する。</p> <p>&#10112;利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>&#10113;利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成</p> <p>&#10114;当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</p> <p>社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</p> <p>なお、実習中、各学生は、その日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う。</p> <p>また、ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。</p>
	授業方法 / 進め方	<p>実習</p> <p>(原則として2年後期の春季休業期間中に60時間かつ8日以上の実習を、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等において行う。この場合、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行う)</p>
	事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌の作成(その日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う) ・各実習指導者から課された課題(実習指導者の指示の下で行う) ・実習種別ごとに課された実習中に取り組む課題(各種別の担当教員の指示の下で行う)
	アクティブ・ラーニング	<p>発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク</p>
備考	実習先や本学の状況により、実習時期及び実習方法等が変更になる可能性がある。	

科目名	更生保護		
科目名（英語）	Rehabilitation of Offenders		
担当教員	今村 浩司		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、社会福祉士国家試験受験資格、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

更生保護制度の歴史的背景や現状を正しく理解し、その概念と構成を学ぶ。また、更生保護制度の概要や基本的用語も理解をしていく。その中での現状、課題、対策などを検討していくとともに、社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の役割について考えていく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

事例をもとにグループワークを行う場合があるので、受講生の積極的な参画を望む。

関連資格

社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師

テキスト

『更生保護制度』社会福祉士シリーズ20、弘文堂（最新版）

参考図書・教材等

随時講義内で紹介していく。資料を配布して説明を行う場合がある。

実務経験を生かした授業

刑事施設において触法障害者や高齢者支援を行った経験のある社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の有資格の教員が、更生保護領域の実践場面での役割や、多機関多職種等との連携の在り方等を解説する。また、現役の法務省関連機関等の職員を、ゲストスピーカーとして招聘予定である。

授業中の撮影

可

学習相談・助言体制

講義の前後の時間随時可。またEメールも可。（imamura_k@seinan-jo.ac.jp）

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ol style="list-style-type: none"> 1、更生保護制度を説明することができる。 2、医療観察法を説明することができる。 3、更生保護における社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の役割の説明ができる。 4、更生保護における関係機関、団体及びその専門職との連携について説明ができる。 5、更生保護の実践と今後の課題、展望について説明ができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

更生保護制度の歴史的背景、概念、構成について。

更生保護制度の概要や基本的用語について。

更生保護の現状、課題、対策等を理解し、社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の役割について。

以上の3点について、正確に理解をした上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。

履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

履修目標に掲げた目標に関して、基本的用語の理解ができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

履修目標に掲げた3点に関して、実践での応用方法も含めて理解をした上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

履修目標に掲げた3点に関して、正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

履修目標に掲げた3点に関して、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1) : 70
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1) : 10
その他	20	知識・技能(DP1) : 20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

少人数グループに分かれて、提供した事例について検討を行い、結果を発表する。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	更生保護と社会福祉 刑事司法の現況、更生保護法制
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
2	授業内容(担当教員)	更生保護制度の概要(1) 仮釈放と生活環境の調整、保護観察、
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
3	授業内容(担当教員)	更生保護制度の概要(2) 更生緊急保護、恩赦
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
4	授業内容(担当教員)	更生保護制度の概要(3) 犯罪予防、被害者支援
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	更生保護の担い手 地方更生保護委員会、保護観察所、民間協力者、更生保護施設
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認

6	授業内容（担当教員）	関係機関・団体との連携（１） 裁判所、検察庁、矯正施設
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
7	授業内容（担当教員）	関係機関・団体との連携（２） 福祉事務所や公共職業安定所
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
8	授業内容（担当教員）	矯正施設と処遇（１） 矯正施設と更生保護制度
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
9	授業内容（担当教員）	矯正施設と処遇（２） 刑事収容施設（ゲストスピーカー予定）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
10	授業内容（担当教員）	矯正施設と処遇（３） 社会復帰援助の現状と展望
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
11	授業内容（担当教員）	医療観察制度の概要（１） 医療観察法について（ゲストスピーカー予定）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
12	授業内容（担当教員）	医療観察制度の概要（２） 指定入院医療機関、指定通院医療機関
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
13	授業内容（担当教員）	医療観察制度の概要（３） 社会復帰調整官、地域処遇
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
14	授業内容（担当教員）	更生保護における動向と課題（１） 少年司法について
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
15	授業内容（担当教員）	更生保護における動向と課題（２） 更生保護の総まとめ
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認

科目名	社会福祉学演習		
科目名(英語)	Seminar in Social Welfare		
担当教員	住友 雄資		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科		
標準履修年次	3～4年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

大学の専門教育の集大成である卒業論文を執筆するための事前学習に相当するのが「社会福祉学演習」である。卒業論文で取り組んでみたいテーマを適切に設定し、卒業論文執筆に向けての研究計画書を作成することを目標に、さまざまな演習をおこなう。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
積極的かつ主体的な参加を期待する。

関連資格

なし

テキスト

なし。関連文献を適宜紹介する。

参考図書・教材等

なし。関連文献を適宜紹介する。

実務経験を生かした授業

社会福祉実践の実務経験を有する教員が、社会福祉関連文献の読解などについての専門知識・技術の修得を指導する。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

授業の前後、随時空き時間（オフィスアワー含む）、メール等に対応。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	関心のある社会福祉に関するテーマについて、先行研究などを適切に収集・読解することをとおして、卒業論文の執筆に関する知識を身につけることができる。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	関心のある社会福祉に関するテーマを、先行研究の読解を通じて、論理的に説明し、導き出し、その成果を適切に表現することができる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	関心のある社会福祉に関するテーマについて、先行研究の読解を通じて、主体的に検討し、取り組む力を協働で身につけることができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

「授業概要」について正確に理解したうえで、自らの考えをわかりやすく表現できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

「授業概要」について、理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。 「授業概要」について応用も含めて理解したうえで、自らの考えを他者にわかりやすく、かつ説得的に表現できる。
A: 80～89	履修目標を達成している。

「授業概要」について正確に理解したうえで、自らの考えを他者にわかりやすく表現できる。
B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
「授業概要」についてある程度理解したうえで、自らの考えを他者に表現できる。
C:60～69 到達目標を達成している。
「授業概要」についてある程度理解できる。
不可:～59 到達目標を達成できていない。
「授業概要」について理解できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内発表	70	知識・技能(DP2)：50，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
中間発表	30	知識・技能(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
、

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション（担当教員）
	授業方法／進め方	オリエンテーション 授業内容の説明
	事前・事後学習	なし
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク
2	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク
3	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク
4	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク
5	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク
6	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク

17	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
18	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
19	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
20	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	社会福祉に関する論文等をレジュメにまとめて各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
21	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文のテーマに関する発表を各自がおこない、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
22	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文のテーマに関する発表を各自がおこない、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
23	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文のテーマに関する発表を各自がおこない、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
24	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文のテーマに関する発表を各自がおこない、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
25	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文のテーマに関する発表を各自がおこない、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
26	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文に向けての研究計画書案を各自が発表し、その後質疑応答とディスカッションをおこなう。
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク

27	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文に向けての研究計画書案を各自が発表し，その後に質疑応答とディスカッションをおこなう．
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／レポート／グループワーク
28	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文に向けての研究計画書案を各自が発表し，その後に質疑応答とディスカッションをおこなう．
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／レポート／グループワーク
29	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	卒業論文に向けての研究計画書案を各自が発表し，その後に質疑応答とディスカッションをおこなう．
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／レポート／グループワーク
30	授業内容（担当教員）	学生の発表後の助言・指導（担当教員）
	授業方法／進め方	中間報告会にて，研究計画書を発表する．
	事前・事後学習	発表準備（事前）／発表のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／レポート／グループワーク

科目名	精神科リハビリテーション学		
科目名（英語）	Psychiatric Rehabilitation		
担当教員	鬼塚 香		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、精神保健福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特になし。

関連資格

精神保健福祉士国家試験受験資格

テキスト

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 [第2版]』中央法規出版、2014年、2970円。

参考図書・教材等

必要に応じて随時紹介する

実務経験を生かした授業

精神保健福祉士としての実務経験を有する教員が、医療機関における精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士に必要な知識と技術について、経験談を交えながら講義する。

学習相談・助言体制

毎授業終了時に課すリアクションペーパーに書かれた意見や質問に対しては、次回の授業でコメントする。また、授業終了時やオフィスアワーに質問や相談を受け付け、必要な場合には次回の授業時に対応する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセスおよび精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割に関する専門知識を有している。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、それらの内容を説明し、目的に応じた精神科リハビリテーションプログラムを企画することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、概要を説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1)：70
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)：30

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画		
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション	
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	
2	授業内容（担当教員）	精神科リハビリテーションの概念と構成 概念	精神科リハビリテーションの概念
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	
3	授業内容（担当教員）	精神科リハビリテーションの概念と構成 の理念、意義と基本原則	精神科リハビリテーション
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	
4	授業内容（担当教員）	精神科リハビリテーションの概念と構成 の構成と展開	精神科リハビリテーション
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	
5	授業内容（担当教員）	精神科リハビリテーションのプロセス ・評価	リハビリテーション計画
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	
6	授業内容（担当教員）	精神科リハビリテーションのプロセス アプローチの方法	アプローチの方法
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	
7	授業内容（担当教員）	精神科リハビリテーションのプロセス 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション	疾病の経過、ライフサイクル
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク	
8	授業内容（担当教員）	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 法	精神専門療法
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	体験学習/調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク	

9	授業内容（担当教員）	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 法	精神専門療
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク	
10	授業内容（担当教員）	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 プログラム	家族教育プ
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク	
11	授業内容（担当教員）	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 プログラム	家族教育プ
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク	
12	授業内容（担当教員）	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 ケア・医療機関のアウトリーチ	精神科デイ
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク	
13	授業内容（担当教員）	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 ケア・医療機関のアウトリーチ	精神科デイ
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／デバート／グループワーク	
14	授業内容（担当教員）	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 医療機関における他職種との協働・連携	チーム医療
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／デバート／グループワーク	
15	授業内容（担当教員）	まとめ	
	授業方法／進め方	講義（適宜、視聴覚教材）	
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／デバート／グループワーク	
備考	定期試験と授業内レポート・小テストの評価の合計が単位取得に必要な点数に満たない場合は、再試験を実施する。		

科目名	精神保健福祉援助演習		
科目名(英語)	Seminar in Mental Health Social Work		
担当教員	鬼塚 香、住友 雄資		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、精神保健福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値を基盤にして、援助・支援の方法・技術について、具体的な実践事例を通して、演習形式で修得する。全30回のうち、3年生は前半の15回を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

授業内容を理解する上で、「精神保健福祉演習」履修済みであること

関連資格

精神保健福祉士国家試験受験資格

テキスト

日本精神保健福祉士養成校協会編(2016)『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版[第2版]。

参考図書・教材等

必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロード・通読し、必要な事前学習をおこなって授業に出席すること

実務経験を生かした授業

精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術を解説することにより、基礎的な専門知識・技術の習得を指導する。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

授業の前後またはオフィスアワー等で対応

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	精神保健福祉の問題解決に関わる専門的スキルを修得することができる。
-------	-----------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	精神保健福祉の諸問題を探求し、その成果を適切に表現することができる。
-------	------------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

「授業概要」の内容について、演習形式で学び、修得する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

「授業内容」の内容について、一定水準で修得し、その技術のある程度活用できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を応用的に活用できる。
A: 80～89	履修目標を達成している。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を適切に活用できる。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 「授業内容」の内容を修得し、その技術のある程度活用できる。
C: 60～69	到達目標を達成している。 「授業内容」の内容をある程度修得した上で、その技術のある程度活用できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

「授業内容」の内容を修得できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内演習内容	100	知識・技能(DP2)：50，思考・判断・表現(DP3)：50

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
2	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（社会的排除）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
3	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（地域移行支援）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
4	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（地域定着支援）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
5	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（ピアサポート）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
6	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（自殺（予防））（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
7	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（ひきこもり）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
8	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（虐待）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
9	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（薬物・アルコール依存・ギャンブル依存）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

10	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（就労（雇用））（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（貧困（低所得））（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（ホームレス）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
13	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（SST）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
14	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（権利擁護）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
15	授業内容（担当教員）	支援課題に関する事例演習（施設コンフリクト）（鬼塚香・住友雄資）
	授業方法／進め方	演習
	事前・事後学習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

科目名	子どもの健康と安全		
科目名（英語）	Child Health and Safety		
担当教員	田中 美樹、吉川 未桜		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	2～3年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

子どもの保健で修得した学習を基礎にして、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解するとともに、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害対策、また子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解し実践する。さらに、子どもの発達や状態等に即した適切な対応・子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画・評価等について具体的に理解する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「子どもの保健」で学んだ子どもの発達・発育や心身の健康状態および疾病予防・対応に関する知識

関連資格

保育士資格

幼稚園教諭一種免許

テキスト

各回の講義内で別途資料を配布する。

参考図書・教材等

「子どもの保健」のテキスト・配布資料

実務経験を生かした授業

小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、子どもの成長発達および状況を考慮しながら演習を行う。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答します。

授業中・後に直接相談を受け付けますが、メールでも対応します。

研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	保育所、福祉現場で子どもを取り巻く環境の変化に応じたさまざまな保健活動についての知識を説明することができる。
(DP2)	子どもの体調不良や発育の変化に気づくために必要な保健・安全管理のスキルを身に付けることができる。 子どもの保健・安全管理スキルについて根拠を探究しながら実践できる。

思考・判断・表現

(DP3)	事例の中の子どもの状況について、問題解決に向けアセスメントし具体策を考えることができる。 自らの考えを適切に発表するとともに、他者の発表を尊重した討議ができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	疾患や障がいをもつ子どもや災害時の保育において、隣接諸機関・他職種との協働する力を身につけることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の根拠を理解し、自ら考えをまとめ、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について具体的に計画し、評価できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）を理解し実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の根拠を理解し、議論を基に主体的に自ら考えをまとめ、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について具体的に計画し、評価できる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の根拠を理解し、議論を基に自ら考えをまとめ、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について計画し、評価できる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の基本を理解し、議論に参加し、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理の計画・評価について考えまとめることができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）について、アドバイスを受け基本的な実践をすることができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理の計画・評価について指導を受けてまとめることができる。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法を理解ができず実践できない。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理についても考えまとめることができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	50	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：10
発表	30	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
その他：実践	20	知識・技能(DP2)：20
備考	再試験を実施する	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

各回で提示する問題について解決策を考える。また、演習を通して体験学習を行う。

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	コースガイダンス 子どもの健康と保育における保健衛生の意義 （田中）
	授業方法 / 進め方	講義 演習（グループ・ディスカッション）
	事前・事後学習	事前：ニュース・新聞等で保育所、福祉現場での保健衛生に関する最近の動向について見る。 「子どもの保健」の講義内容を復習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク
2	授業内容（担当教員）	保健計画の作成と活用 保健活動の記録と評価 子どもの身体発育と観察と評価（個別・集団） （田中）
	授業方法 / 進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：ニュース・新聞等で保育所、福祉現場での保健衛生に関する最近の動向について見る。 「子どもの保健」の講義内容を復習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
3	授業内容（担当教員）	保健的観点を踏まえた保育環境および援助 子どもの生活習慣と心身の健康のための養護 （吉川）
	授業方法 / 進め方	小テスト（1～2回目の講義内容） 講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、その他
4	授業内容（担当教員）	保健的観点を踏まえた保育環境および援助 清潔の保持（オムツ交換、更衣、歯みがきなど） （吉川）
	授業方法 / 進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、その他
5	授業内容（担当教員）	保健的観点を踏まえた保育環境および援助 子どもの栄養（授乳、離乳食）と援助方法 （吉川）
	授業方法 / 進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、その他
6	授業内容（担当教員）	子どもの体調不良時の適切な判断と対応 発熱、脱水、下痢・嘔吐時の観察・判断および対応 （田中）
	授業方法 / 進め方	小テスト（3～5回目の講義内容） 講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児が罹患しやすい疾患について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

7	授業内容（担当教員）	子どもの体調不良時の適切な判断と対応 けいれん、呼吸困難時の観察・判断および対応 （田中）
	授業方法／進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児が罹患しやすい疾患について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習
8	授業内容（担当教員）	子どもの体調不良時の適切な判断と対応（応急手当など） （田中）
	授業方法／進め方	演習 グループワーク
	事前・事後学習	事前：乳幼児が罹患しやすい疾患について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	感染症の予防と対策・保育者の自己管理（手洗い） （吉川）
	授業方法／進め方	小テスト（6～8回目の講義内容） 演習 グループワーク
	事前・事後学習	子どもが罹りやすい感染症について調べ、学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	特別・個別的な配慮が必要な子どもへの対応（慢性疾患・障がい・アレルギーなどをもつ子ども） （吉川）
	授業方法／進め方	演習 グループワーク
	事前・事後学習	特別な配慮が必要な子どもの特徴（疾患や症状）について調べ学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	子どもの事故防止と安全対策 乳幼児に起こりやすい事故の特徴と予防・対処方法 （田中）
	授業方法／進め方	小テスト（9～10回目の講義内容） 講義 グループワーク
	事前・事後学習	乳幼児の発達段階を復習した上で、起こりやすい事故について調べ学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	子どもの事故防止と安全対策 事故事例をもとにグループワーク （田中）
	授業方法／進め方	講義 グループワーク
	事前・事後学習	事例の内容について調べ、意見をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

13	授業内容（担当教員）	子どもの事故防止と安全対策 誤嚥・窒息など事故発生時の処置と心肺蘇生法 （田中）
	授業方法／進め方	講義 演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の事故について復習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
14	授業内容（担当教員）	健康・安全管理の実施体制 災害・事故発生時等の組織的な取り組み 保健活動計画の立案と作成・評価 （田中）
	授業方法／進め方	演習 グループワーク
	事前・事後学習	災害が子どもに与える影響について、ニュースや新聞記事をもとに調べ学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
15	授業内容（担当教員）	健康・安全管理の実施体制 （田中）
	授業方法／進め方	小テスト（11～14回目の講義内容） 講義 グループワーク
	事前・事後学習	事前：14回目までの講義・演習の復習
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
備考	授業順番などは変更になる可能性があります。	

科目名	子どもの食と栄養		
科目名（英語）	Childhood Food and Nutrition		
担当教員	青木 哲美		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	3～4年	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

子どもの心身の発達に食と栄養は重要な役割を果たしている。胎児期から思春期の各段階に応じた栄養と食生活について学ぶ。食生活環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を挙げ、小児期からの「食育」の重要性について理解をし、生活習慣病予防と幼児期からの食の関わりについて述べるができるようにする。また、食物アレルギーについても、発生機序、原因食品、注意点等を知り、症状が出現した場合の緊急対応についても対応出来るようにする。保育者も自らの食生活を振り返り食生活を改善していくことを視野に入れ、子どもとともに食を楽しみながら、子どもの食への関心を育み“食を営む力”を培う「食育」を実践できるようにする。又さらに理解を深め活動展開できるように、演習として教材等の作成、発表を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特になし。

関連資格

特になし。

テキスト

「子供の食と栄養」堤ちはる・藤澤由美子（編集）中央法規、2019年2月、2000円

[副教材]「646食品成分表2020」646食品成分表編集委員会（編集）東京法令出版株式会社、2022年3月発売、680円

参考図書・教材等

「乳幼児の食育実践へのアプローチ子どもがかがやく」保育所における食育研究会（編）児童育成協会児童給食事業部、2004年9月、1572円

「令和3年度版-食育白書」農林水産省（編）2021年6月、2145円

「元気な脳が君たちの未来をひらく」川島隆太著、くもん出版、2012年、1540円

「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子（編著）萌文書林、2021年11月、2640円

実務経験を生かした授業

学校給食での管理栄養士の経験を有し、現在は総合病院管理栄養士として、離乳食、幼児食、学童食の献立作成、小児科の栄養相談等に当たっている教員が、将来の食習慣にも影響を与える小児期における食の重要性について説明し、生活習慣病予防と幼児期からの食との関わりについて述べる。また食物アレルギーに対応している経験から具体例を提示し、厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を参考にしながら緊急時個別対応票、経過記録票に実際に記入し対応の仕方や、日常生活への配慮について考える。

授業中の撮影

基本禁止。

学習相談・助言体制

口頭でも質問票でも可。授業終了後、もしくは毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次の授業時に質問に答える。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P	
知識・技能	
(DP1)	小児の発育発達における意義や基礎的な栄養に関する知識について理解を深め考えることができる。地域社会における食文化との関わりの中で食生活体験の重要性を理解し、自らの意見を述べるができる。
(DP2)	小児の発育発達における意義や基礎的な栄養に関する知識について説明ができ、教材を作成できる。地域社会における食文化との関わりにおいて食生活体験の重要性について資料を作成し説明できる。

思考・判断・表現

(DP3)	特別な配慮を要する子どもの食の意義と栄養に関する知識を持ち判断力をつけ対応できる。 自らも食生活を振り返りながら、健全な食習慣の確立を図り食育していくことの重要性を理解できる。 グループディスカッションに積極的に参加し、テーマに沿った発言、傾聴ができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

発育・発達をめざましい時期の子供の食生活と栄養の特性について理解し、専門知識や技術を活用することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

自らの食への知識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養い、学んだ知識や技術介し保育の実践活動へ発展させる事が出来る。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
	子供の食生活と栄養の特性について理解したうえで、自らの食への知識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養い、学んだ知とや技術を保育の実践活動へ発展させる事が出来る。
A:80～89	履修目標を達成している。
	子供の食生活と栄養の特性について、基本的な専門知識や技術を身に着け、実践できる。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	子供の食生活と栄養の特性について、基本的な事は理解できている。
C:60～69	到達目標を達成している。
	子供の食生活と栄養の特性に関する用語の意味が理解できる。
不可:～59	到達目標を達成できていない。
	子供の食生活と栄養の特性について理解できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	20	知識・技能(DP1)：10，(DP2)，思考・判断・表現(DP3)：10
授業外レポート・宿題	50	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：20
発表	20	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)：10
その他	10	思考・判断・表現(DP3)：10

・授業計画、 .アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容	
個人又は、グループに分かれ与えられた課題について考察し、理解を深める。また、結果を発表することで、保育の現場での、分かりやすいプレゼンテーションの方法を考える。	

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	子どもの健康と食生活の意義 ・子どもの心身の健康と食生活 ・子どもの食生活の現状と課題 [演習]朝食欠食について
	授業方法/進め方	・オリエンテーション ・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第1講 Step1 Step2 演習1
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、グループディスカッション/レポート/グループワーク、その他

2	授業内容（担当教員）	子どもの健康と食生活の意義 ・子どもの健康は妊娠中の 母親の適切な食事から [演習]食の安全性について
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第1講 Step2 演習2 Step3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
3	授業内容（担当教員）	栄養の基本 ・栄養とは ・子どもの栄養の特徴 [演習]「食べ物のゆくえ」 理解のための絵の作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第2講 Step1 Step2 演習1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
4	授業内容（担当教員）	栄養の基本 ・人はなぜ太るのか ・脳活動とエネルギー [演習]・栄養の適量とは ・栄養素摂取について
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第2講 Step2 演習2、3 Step3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
5	授業内容（担当教員）	栄養素の種類とはたらき ・栄養素の種類と働き ・水分代謝 [演習] ・ミネラルの生理作用について
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第3講 Step1 Step2 演習1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他

6	授業内容（担当教員）	<p>栄養素の種類とはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルシウムとピークボーンマス ・機能成分 <p>[演習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビタミンの生理作用について
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習
	事前・事後学習	<p>テキスト 第3講</p> <p>Step 2 演習 2</p> <p>Step 3</p>
	アクティブ・ラーニング	<p>発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他</p>
7	授業内容（担当教員）	<p>日本人の食生活の目標</p> <p>「日本人の食事摂取基準」</p> <p>「食事バランスガイド」「食生活指針」</p> <p>[演習] 自分の食生活の確認</p>
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習
	事前・事後学習	<p>テキスト 第4講 Step1</p> <p>Step2 演習 1</p>
	アクティブ・ラーニング	<p>発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他</p>
8	授業内容（担当教員）	<p>日本人の食生活の目標</p> <p>「食生活指針」からみる</p> <p>日本人の食生活の課題</p> <p>[演習] 自分の食生活の確認</p>
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習
	事前・事後学習	<p>テキスト 第4講</p> <p>Step 2 演習 1 続き</p> <p>Step 3</p>
	アクティブ・ラーニング	<p>発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他</p>
9	授業内容（担当教員）	<p>献立作成・調理の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立作成の基本 ・調理の基本 <p>[演習] 1日分の献立作成</p>
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習
	事前・事後学習	<p>テキスト 第5講 Step1</p> <p>Step2 演習 1</p>
	アクティブ・ラーニング	<p>発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他</p>

10	授業内容（担当教員）	献立作成・調理の基本 ・和食：日本人の伝統的食文化 [演習] 郷土料理の紹介
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第5講 Step 2 演習 2 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
11	授業内容（担当教員）	乳児期の授乳の意義と食生活 ・乳児期の栄養・食生活の特徴 [演習] 母乳・乳児用調製粉乳・牛乳の違いを知る
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第6講 Step1 Step2 演習 1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
12	授業内容（担当教員）	乳児期の授乳の意義と食生活 ・乳児期の栄養・食生活の特徴 [演習] 乳児用調製粉乳を母乳にちかづけるための工夫
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第6講 Step 2 演習 1 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
13	授業内容（担当教員）	乳児期の離乳の意義と食生活 ・離乳の定義と必要性 [演習] 手づかみ食べの重要性
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第7講 Step1 Step2 演習 1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他

14	授業内容（担当教員）	乳児期の離乳の意義と食生活 ・離乳期の食生活の問題点と対応 [演習] 手づかみ食べのすすめ
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第7講 Step 2 演習 1 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
15	授業内容（担当教員）	幼児期の心身の発達と食生活 ・幼児期の成長と発達 ・幼児期の栄養 [演習] 3～5才児のお弁当
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第8講 Step1 Step2 演習 1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
16	授業内容（担当教員）	幼児期の心身の発達と食生活 ・幼児期の成長と発達 ・幼児期の栄養 [演習] おやつのおおきさと家庭支援
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第8講 Step 2 演習 2 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
17	授業内容（担当教員）	学童期・思春期の心身の発達と 食生活、生涯発達と食生活 ・学童期・思春期の成長と発達 ・生涯発達の考え方 [演習] 学校給食を知る
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第9講 Step1 Step2 演習 1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他

18	授業内容（担当教員）	学童期・思春期の心身の発達と 食生活、生涯発達と食生活 ・栄養教諭精度について ・母性保護 [演習] 自分の将来設計と食
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第9講 Step 2 演習 2 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
19	授業内容（担当教員）	保育における食育の意義・目的 と基本的考え方 ・食育推進のための体制づくり ・食育基本法 [演習] 食育活動と「食育」
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第10講 Step1 Step2 演習 1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
20	授業内容（担当教員）	保育における食育の意義・目的 と基本的考え方 ・第3次食育推進基本計画 [演習] 食育活動と「食育」つづき
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第10講 Step 2 演習 1つづき Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
21	授業内容（担当教員）	食育の内容と計画および評価 ・保育の一環としての食育の展開 [演習] 食育の年間計画作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第11講 Step1 Step2 演習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他

22	授業内容（担当教員）	食育の内容と計画および評価 ・食育の取り組みの視点 [演習] 食育の年間計画作成 つづき
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第11講 Step 2 演習 つづき Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
23	授業内容（担当教員）	地域や家庭と連携した食育の展開 ・地域の関係機関との連携 ・食育の保護者支援 [演習] 食育と地域連携
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第12講 Step1 Step2 演習 1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
24	授業内容（担当教員）	地域や家庭と連携した食育の展開 ・食育支援で役立つ 行動変容の理論やモデル [演習] 保護者への食育の方法
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第12講 Step 2 演習 2 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
25	授業内容（担当教員）	家庭や児童福祉施設における 食事と栄養 ・家庭における食生活上の問題点 ・児童福祉施設の特徴 [演習] 3～5歳児の朝食献立作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第13講 Step1 Step2 演習 1
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他

26	授業内容（担当教員）	家庭や児童福祉施設における 食事と栄養 ・施設における衛生管理 ・食中毒発生時の対応 [演習] 行事食のポスターづくり
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第13講 Step 2 演習 2 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
27	授業内容（担当教員）	特別な配慮を必要とする 子どもの食と栄養 ・子どもの疾病および体調不良の特徴 [演習] 脱水症への対応 記録表づくり
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第14講 Step1 Step2 演習 : 準備
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
28	授業内容（担当教員）	特別な配慮を必要とする 子どもの食と栄養 ・特別な食事療法が必要な慢性疾患 [演習] 脱水症への対応 実際に体験してみる
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第14講 Step 2 演習 実習 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他
29	授業内容（担当教員）	特別な配慮を必要とする 子どもの食と栄養 ・食物アレルギーのある 子どもへの対応 [演習] アレルギー疾患生活管理指 導表作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第15講 Step1 Step2 演習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク、その他

30	授業内容（担当教員）	子どもの食と栄養 ・食物アレルギーのある 子どもへの生活への配慮 [演習] 緊急時個別対応表・ 経過記録表作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第15講 Step 2 演習 Step 3
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他

科目名	子ども家庭支援論		
科目名(英語)	Family and Child Support Theory		
担当教員	杉野 寿子		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	2～3年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

子育て家庭に対する支援の意義・目的、特に保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義を理解し、子ども家庭に対する支援の体制や家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携および現状と課題について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「社会福祉」を履修済みまたは履修中であること。

関連資格

保育士必修科目

テキスト

「保育と子ども家庭支援論」井村圭壮ほか、勁草書房、2020年

参考図書・教材等

授業にて紹介する

実務経験を生かした授業

子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら講義する。

学習相談・助言体制

質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	子育て家庭を取り巻く社会状況と子育て家庭に対する支援の意義・目的、課題について述べるができる。
(DP2)	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携についてまとめることができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の方法について説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況、保育士の役割について述べるができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	60	知識・技能(DP1), (DP2)
授業内レポート・小テスト	10	知識・技能(DP1), (DP2)
授業外レポート・宿題	30	知識・技能(DP1), (DP2)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
アクティブラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	子ども家庭支援の意義と必要性
	授業方法/進め方	講義、ディスカッション
	事前・事後学習	第1、2章を読む 「社会福祉」でのソーシャルワークの内容について復習する
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
2	授業内容(担当教員)	子ども家庭支援の目的と機能
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	第1、2章を読む 「社会福祉」でのソーシャルワークの内容について復習する
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
3	授業内容(担当教員)	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義、
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	第3、4章を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
4	授業内容(担当教員)	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	第5章を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	保育士に求められる基本的態度
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	第6章を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
6	授業内容(担当教員)	保育士に求められる基本的態度
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	配布資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
7	授業内容(担当教員)	保育士に求められる基本的態度
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	配布資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
8	授業内容(担当教員)	家庭の状況に応じた支援
	授業方法/進め方	講義、ディスカッション
	事前・事後学習	第7章を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク

9	授業内容（担当教員）	地域の社会資源の活用
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	第8～10章を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
10	授業内容（担当教員）	子育て支援施策・次世代育成支援事業など
	授業方法／進め方	ジグソー（教え合う）
	事前・事後学習	子育て支援施策や社会資源について調べる
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
11	授業内容（担当教員）	子育て支援施策・次世代育成支援事業など
	授業方法／進め方	ジグソー（教え合う）
	事前・事後学習	子育て支援施策や社会資源について調べる
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	保育所等を利用する家庭への支援
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	第11、12章を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
13	授業内容（担当教員）	地域の子育て家庭への支援
	授業方法／進め方	学外授業（子育て支援の現場）またはゲストスピーカーによる講義とディスカッション
	事前・事後学習	地域子育て支援センターなど子育て支援の社会資源を調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
14	授業内容（担当教員）	要保護児童と家庭への支援
	授業方法／進め方	講義、ディスカッション
	事前・事後学習	第14章を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
15	授業内容（担当教員）	まとめ（家庭支援における課題）
	授業方法／進め方	講義、ディスカッション
	事前・事後学習	第15章を読む、これまでの復習をし、まとめをする
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

科目名	子ども家庭福祉		
科目名(英語)	Family and Child Welfare		
担当教員	西原 尚之		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	2～3年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

この授業では子どもを対象とする専門職、とくに保育士を目指す学生に必要な子ども家庭福祉の基本的知識を学習します。まず総論として地域・家族・価値観の変化が目まぐるしい現代社会において子どもを支援する専門職としての大局的な視点を学習します。次に子ども家庭福祉領域で必要な法制度、実施体制について講義します。そのうえで、社会的養護、子ども虐待、子どもの貧困問題、障がい児への福祉など子ども家庭福祉の諸課題を取り上げ、子どもや保護者への支援につながるような視点で講義をおこないます。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
特にありません

関連資格

保育士

テキスト

- ・テキストは使用しません
- ・レジュメや必要な資料を授業で配布します

参考図書・教材等

参考文献等は授業中に適宜紹介します

実務経験を生かした授業

児童相談所の児童心理司(心理判定員)としての実務経験をもとにできるだけ具体的イメージがもてる講義を行います

学習相談・助言体制

- ・質問や意見は「受講カード」で対応します
- ・授業後の質問、意見も歓迎します

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	保育・幼児教育または心理学及び心理的援助、近接諸科学に関わる基礎的知識を説明できる
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

子ども家庭福祉における法制度および現在注目されている子ども家庭福祉の課題を十分に理解し、それを具体的に説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

子ども家庭福祉における法制度および現在注目されている子ども家庭福祉の課題を理解し、それをおおまかに説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
	子ども家庭福祉における法制度および現在注目されている子ども家庭福祉の課題を十分に理解し、それを文章で的確に説明できる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
	子ども家庭福祉における法制度および現在注目されている子ども家庭福祉の課題を十分に理解し、それを文章で説明できる。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

子ども家庭福祉における法制度および現在注目されている子ども家庭福祉の課題を理解し、それを文章で説明できる。

C:60～69 到達目標を達成している。

子ども家庭福祉における法制度および現在注目されている子ども家庭福祉の課題をある程度理解し、それを文章である程度説明できる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

子ども家庭福祉における法制度および現在注目されている子ども家庭福祉の課題を十分に理解していない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1)：70
授業への参加態度	30	知識・技能(DP1)：30
備考	授業への参加態度は毎回提出する受講カードに書き入れた授業への意見・質問で評価します	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	総論(1)：現代社会における子ども家庭福祉の位置づけ
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	シラバスを読んでおく
2	授業内容(担当教員)	総論(2)：多様化する家族と子ども家庭福祉
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	現代家族の特徴を調べておく
3	授業内容(担当教員)	総論(3)：子どもの権利と子ども家庭福祉
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	子どもの権利条約を読んでおく
4	授業内容(担当教員)	子ども家庭福祉の法制度
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	児童福祉法を読んでおく
5	授業内容(担当教員)	子ども家庭福祉の実施体制と専門職
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	子ども家庭福祉に関する施設・機関・専門職について調べておく
6	授業内容(担当教員)	子ども家庭福祉の具体的課題(1)：社会的養護の概要
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	里親の現状について調べておく
7	授業内容(担当教員)	子ども家庭福祉の具体的課題(2)：子ども虐待の概要
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	子ども虐待の現状について調べておく
8	授業内容(担当教員)	子ども家庭福祉の具体的課題(3)：被虐待児の理解と支援
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	愛着障害とPTSDについて調べておく
9	授業内容(担当教員)	子ども家庭福祉の具体的課題(4)：ドメスティック・バイオレンスの概要
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	DV防止法を読んでおく
10	授業内容(担当教員)	子ども家庭福祉の具体的課題(5)：障がいを持つ子どもとその家族
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	障がい受容について調べておく

11	授業内容（担当教員）	子ども家庭福祉の具体的課題（6）： 障がい児領域の法制度
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	障がい児が利用する施設について調べておく
12	授業内容（担当教員）	子ども家庭福祉の具体的課題（7）： 子どもの貧困問題
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	子どもの貧困の概念を調べておく
13	授業内容（担当教員）	子ども家庭福祉の具体的課題（8）： ひとり親家庭
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	ひとり親家庭の現状について調べておく
14	授業内容（担当教員）	子ども家庭福祉の支援の実際(事例)
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	事例を読んでおく
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	前回までの授業を復習しておく

科目名	子育て支援		
科目名（英語）	Social Work in Childcare		
担当教員	杉野 寿子		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

子育て支援の意義と原則など基本を理解し、支援の実際を学びその内容や方法を習得する。さまざまな事例をもとに、グループディスカッションやロールプレイを行いながら、スキルを身につけていく。子ども家庭支援論などこれまで関連科目で学んだことを応用していく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

3年次までの保育士必修科目をすべて履修済みまたは履修中のこと

関連資格

保育士必修科目

テキスト

なし

参考図書・教材等

授業にて紹介する。

実務経験を生かした授業

入所型・通所型の児童福祉施設での保育・療育経験、および子どもと家庭へのソーシャルワーク経験から、実際の支援を解説しながら講義する。

学習相談・助言体制

質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	保育士の行なう保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解し、説明することができる。
(DP2)	子育て支援の実践例より、支援の内容と方法について考察し、課題を挙げ自分の意見を述べることができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

子育て支援の意義と原則および支援の基本について、また子育て支援の方法と技術、価値について説明するとともに、相談場面を想定したロールプレイにおいて適切な対応ができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

子育て支援の意義と原則および子育て支援の基本を理解し、方法と技術、価値について述べるができる

成績評価の基準

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。
B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69	到達目標を達成している。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	20	知識・技能(DP2)
授業外レポート・宿題	50	知識・技能(DP1), (DP2)
授業内ワークの取り組み	30	知識・技能(DP2)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
アクティブラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション 子育て支援とは
	授業方法/進め方	講義、ディスカッション
	事前・事後学習	子ども家庭支援論などで学んだソーシャルワークの基礎の復習、これまでの保育実習のふりかえり
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
2	授業内容(担当教員)	保育現場の事例から、保育士が行う子育て支援の特性
	授業方法/進め方	グループワーク
	事前・事後学習	これまでの実習での保護者とのかかわりをまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
3	授業内容(担当教員)	保育現場の事例から、保育士が行う子育て支援の特性
	授業方法/進め方	DVD視聴後にディスカッション
	事前・事後学習	これまでの実習での保護者とのかかわりをまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
4	授業内容(担当教員)	保護者との相互関係と信頼関係の形成
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	家庭の変容と保育の関連について調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	保育士が行う子育て支援の展開
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	家庭の変容と保育の関連について調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
6	授業内容(担当教員)	保育者としての価値と倫理、個人の価値観、自己覚知
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	保育士の価値と倫理をまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
7	授業内容(担当教員)	対人援助の基本、受容的かかわりなど
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	対人援助の基本的態度をまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
8	授業内容(担当教員)	子育て支援とソーシャルワーク 支援のプロセス
	授業方法/進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	相談支援のプロセスをまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク

9	授業内容（担当教員）	相談支援の技術
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	相談支援の各種技術についてまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
10	授業内容（担当教員）	子育て支援の現場の理解
	授業方法／進め方	子育て支援の現場訪問（学外授業）またはゲストスピーカーによる講義をもとにディスカッション
	事前・事後学習	子育て支援の社会資源を調べる 現場の理解についてレポートをまとめる
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク
11	授業内容（担当教員）	保育所等での支援の事例
	授業方法／進め方	グループワーク
	事前・事後学習	配布資料を読み関連事項を調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	特別な配慮を要する子どもとその家庭への支援
	授業方法／進め方	グループワーク
	事前・事後学習	配布資料を読み関連事項を調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
13	授業内容（担当教員）	子ども虐待の予防と対応
	授業方法／進め方	グループワーク
	事前・事後学習	配布資料を読み関連事項を調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
14	授業内容（担当教員）	多様な支援ニーズをかかえる子育て家庭への理解と支援
	授業方法／進め方	グループワーク
	事前・事後学習	配布資料を読み関連事項を調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、ディスカッション
	事前・事後学習	これまでの授業のふりかえり 学習課題をまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

科目名	心理演習		
科目名（英語）	Seminar in Psychology		
担当教員	小山 憲一郎、吉岡 和子、岩橋 宗哉		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、かつ、事例検討で取り上げる。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得（１）コミュニケーション（２）心理検査（３）心理面接（４）地域支援等（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（エ）多職種連携及び地域連携（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
心理コースの学生

関連資格

公認心理師国家試験受験資格、認定心理士

テキスト

なし

参考図書・教材等

臨床心理学 第16巻 第3号 特集 臨床的判断力（金剛出版）

臨床心理学 第17巻 第1号 特集 「こんなときどうする？」にこたえる 20 のヒント 心理職の仕事術（金剛出版）

その他は講義中に紹介

実務経験を生かした授業

医療機関等での心理臨床経験を生かして授業を行う。

学習相談・助言体制

基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。

さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	様々な立場にある人々に対する心理的援助スキルの基礎を修得している。
-------	-----------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	関連する諸問題に対する心理的援助の適切な対応を検討できる。
-------	-------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	関連する諸問題に対して、主体的に検討することができる。 様々な立場にある人々のニーズについて理解し、協働して支援計画を作成することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

事例検討や役割演技を通して、DP2～4を十分に達成している。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

DP2～4について、最低限身につけている。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
--

A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業への参加度	30	知識・技能(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
発表	70	知識・技能(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：20，主体性・多様性・協働性(DP4)：30
備考	授業への参加度は、授業中と授業の最後に書いてもらう出席レポート内容で評価します。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容	
第2回から第15回に課題解決学修、グループ・ディスカッション及びロールプレイを行う。	

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	子ども及び大人の事例の紹介
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容（担当教員）	子どもの事例検討 虐待により入所施設で生活する小学生の事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容（担当教員）	子どもの事例検討 虐待により入所施設で生活する小学生の事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容（担当教員）	子どもの事例検討 虐待により入所施設で生活する小学生の事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他

5	授業内容（担当教員）	大人の事例検討 うつ病による休職を繰り返す事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容（担当教員）	大人の事例検討 うつ病による休職を繰り返す事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容（担当教員）	大人の事例検討 うつ病による休職を繰り返す事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容（担当教員）	心理面接：ロールプレイ
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、模擬事例を使用して、ロールプレイを行い、心理面接での基本的なかかわり方を学ぶ。
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	心理面接：ロールプレイ
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、模擬事例を使用して、ロールプレイを行い、心理面接での基本的なかかわり方を学ぶ。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	子どもの事例についての支援計画
	授業方法 / 進め方	グループごとに支援計画を発表し、支援計画作成のための理解を深めるためにディスカッションを行う
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	大人の事例についての支援計画
	授業方法 / 進め方	グループごとに支援計画を発表し、支援計画作成のための理解を深めるためにディスカッションを行う
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他

12	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	心理学研究法		
科目名（英語）	Psychological Research Methods		
担当教員	上野 行良、小山 憲一郎、小林 亮太、麦島 剛		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

心理学の基本的な研究方法を学びます。心理学は実証を重視することによって発展してきました。多くの心理学的な知見を学ぶ際も、その実証性を確かめながら理解することが必要です。また受講されるみなさんのほとんどが卒業論文では実証的な研究を行うこととなります。心理をどのように実証的に研究するかを知り、身につけましょう。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

公認心理師

テキスト

なし

参考図書・教材等

なし

実務経験を生かした授業

14・15回では公認心理師及び臨床心理士の資格をもち、臨床経験のある教員が面接について教授する。

授業中の撮影

対面免除申請への対応時に録画あり。

学習相談・助言体制

講義中及びメール、またはe-learning上のミニレポート内での質問を受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	心理学の研究法を知る。
(DP2)	心理学研究を行うための基礎的なスキルを身につける。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

心理学研究を実証的に研究する方法を知り、適切に行うことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

心理学研究をどのように実践するかを知っている。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	80	知識・技能(DP1) : 40 , (DP2) : 40
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1) : 5 , (DP2) : 5
発表	3	知識・技能(DP1) : 1 , (DP2) : 2
その他	7	知識・技能(DP1) : 3 , (DP2) : 4

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	仮説検証
	授業方法/進め方	グループワークを通し実験計画を立てる。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
2	授業内容(担当教員)	研究デザイン
	授業方法/進め方	グループワークを通し実験計画を立てる。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
3	授業内容(担当教員)	統計的検定
	授業方法/進め方	グループワークを通し妥当な統計的検定を選ぶ訓練をする。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
4	授業内容(担当教員)	質問紙
	授業方法/進め方	グループワークを通し質問紙を作成する。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	質問紙
	授業方法/進め方	グループワークを通し質問紙を作成する。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
6	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
7	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
8	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
9	授業内容(担当教員)	生理と行動
	授業方法/進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
10	授業内容(担当教員)	生理と行動
	授業方法/進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク

11	授業内容（担当教員）	生理と行動
	授業方法 / 進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
12	授業内容（担当教員）	観察
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
13	授業内容（担当教員）	観察
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
14	授業内容（担当教員）	面接
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
15	授業内容（担当教員）	面接
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。

科目名	心理学的支援法		
科目名(英語)	Methods of Psychological Support		
担当教員	吉岡 和子、岩橋 宗哉		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

下記についての知識及び技能を修得する。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界（#1～7）
- ・プライバシーへの配慮（#8,9） ・訪問による支援や地域支援の意義（#8,9）
- ・心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援（#8,9）
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法（#10～14）
- ・心の健康教育（#15）

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

公認心理師国家試験受験資格
認定心理士

テキスト

なし

参考図書・教材等

川瀬正裕・松本英夫・松本真理子「心とかかわる臨床心理-基礎・実際・方法-」ナカニシヤ 出版、2006年
杉浦京子「臨床心理学講義」朱鷺書房、2002年
川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子「これからの心の援助-役に立つカウンセリングの基礎と技法-」ナカニシヤ出版、2001年
河合隼雄「カウンセリングの実際問題」誠信書房、1970年
高橋紀子・吉岡和子「心理臨床、現場入門-初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版、2010年
その他は講義中に紹介

実務経験を生かした授業

医療機関、心理教育相談室等での心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。

学習相談・助言体制

基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。
さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	代表的な心理療法やカウンセリング、訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者への支援、心の健康教育について説明できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

アクティブラーニングでの体験をもとに、DP1について述べるができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

DP1について述べるができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業への参加度	60	知識・技能(DP1) : 60
まとめレポート	40	知識・技能(DP1) : 40
備考	授業への参加度は、授業の最後に感想や質問等を書いてもらう出席レポート内容で評価します。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
第3回から第15回まで、体験学習やグループ・ワークなどを行う。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	代表的な心理療法及びカウンセリング 1
	授業方法/進め方	資料やDVD等を通して基本的な考え方を学ぶ。心理学的支援法について体験的に学ぶ。演習内容の説明を行った後、様々なワークを行う。適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりしながら、理解を深めていく。
	事前・事後学習	参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておく、より理解が深まるのでそのように予習してください。以上のような予習に加えて、具体的なかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。また、疑問がある場合は適宜質問してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容(担当教員)	代表的な心理療法及びカウンセリング 2
	授業方法/進め方	#2～#15 同上
	事前・事後学習	#2～#15 同上
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 1 体験を表現すること : コラージュ作成を通して
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 2 体験を表現すること : コラージュ作成を通して
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 3 相互作用の中で表現すること : スクイグルを通して
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 4 体験を味わい表現する : フォーカシングを通して
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 5 ワーク体験の共有
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容(担当教員)	心理学的支援の進め方 1
	アクティブ・ラーニング	その他

9	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方 2
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 1 ラポールの確立 : 傾聴を支える技術
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 2 ラポールの確立 : 面接環境や面接者の態度の重要性
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 3 質問技法の検討
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 4 質問技法の検討
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 5 傾聴のロールプレイ
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	心の健康教育：リラックス法を中心に
	アクティブ・ラーニング	その他